

| | |
|----------|------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | レクリエーション学Ⅱ |
| 担当者 | 田中敏彦・非常勤講師 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 演習 |
| 教科書・参考書 | なし |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>高齢化社会を迎え、作業療法士の職域としての老年期障害分野も拡大してきている。機能訓練以外にも介護予防・健康増進・肥満対策といった身体活動とともに、人生の質の向上を目指しての高齢者との関係作りができる活動としてダンスを習得する。なお、病院等で臨床経験のある作業療法士と各ダンス専門の外部講師で各回の講義を行う。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|--------------|
| 1 | 後期 | 「コンテンポラリーダンスの治療的応用①」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の担当パートの振付を一曲通して行うことができる。 コンテンポラリーダンスの治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 2 | | | | |
| 3 | 後期 | 「ヒップホップダンスの治療的応用①」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 4 | | | | |
| 5 | 後期 | 「コンテンポラリーダンスの治療的応用②」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 6 | | | | |
| 7 | 後期 | 「コンテンポラリーダンスの治療的応用③」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ヒップホップダンスの治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 8 | | | | |

| | | | | |
|--------|----|--|---|--------------|
| 9 | 後期 | 「コンテンポラリーダンスの治療的応用④」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。 | ・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 10 | | | | |
| 11 | 後期 | 「ヒップホップダンスの治療的応用②」 ヒップホップダンスを通して、ダンスの基本となるステップ・リズムを学び、糖尿病の運動療法・ダイエットプログラムとしての応用を学ぶ。 | ・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 12 | | | | |
| 13 | 後期 | 「コンテンポラリーダンスの治療的応用⑤」 コンテンポラリーダンスを通して、ノンバーバルな身体表現を学ぶ。合わせてコンテンポラリーダンス特有の動きから、ストレッチ法・リラクゼーション法を学ぶ。 | ・基本となるステップ・振付を一曲通して行うことができる。 ・ヒップホップダンスの治療亭応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 14 | | | | |
| 15 | 後期 | 「まとめと試験」 ・各ダンスの発表を行う。 | ・各ダンスの発表後の振り返りができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（発表）を行い、60 点以上を合格とする。 | | |
| 準備学習など | | | | |
| 留意事項 | | | | |

| | |
|----------|-------------------------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 運動学Ⅱ |
| 担当者 | 角本 裕之進 |
| 単位数（時間数） | 2単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | Medicalview 動作分析バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 |

| |
|--|
| <p>授業概要と目的</p> <p>作業療法分野の評価学では患者さんの動作を観察して、その中にある異常性の原因を解明する技術「動作分析」が求められている。</p> <p>本授業では基本動作（臥位・座位・立位・立ち上がり・着座・歩行）に関して、正常運動のメカニズムの理解、そして異常運動を正しく観察すること、原因を推測することを目的とする。</p> <p>また日常生活活動（以下ADL）に関しても動作分析が記載できるようにする。</p> <p>なお、作業療法士として臨床経験のあるものが、その経験を生かして授業を行う。</p> |
|--|

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|---|-------|
| 1 | 前期 | 「オリエンテーション」 「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析と動作観察の違いを理解する | 「動作分析・動作観察とは」 ・動作分析とは何か述べる ・動作観察とは何か述べる ・制限因子の種類について記述する ・観察すべきポイントを述べる | 角本裕之進 |
| 2 | 前期 | 「動作分析のポイント」 動作分析に必要な「姿勢」について知る | 「動作分析のポイント」 ・姿勢とは何か述べる ・姿勢とは何か調べる ・矢状面、前額面の違いについて述べる ・スティックピクチャーとは何か述べる | 角本裕之進 |
| 3 | 前期 | 「背臥位の動作分析」 背臥位を観察し、その特徴を習得する | 「背臥位の動作分析」 ・背臥位の特徴を述べる ・背臥位の観察するポイントを述べる ・背臥位の状態を実際に見せる ・観察した内容を列記する ・背臥位時の姿勢筋緊張の程度を触診する | 角本裕之進 |
| 4 | | | | |
| 5 | 前期 | 「寝返りの動作分析」 寝返りを観察し、その特徴と異常 | 「寝返りの動作分析」 ・寝返りの正常メカニズムを知る | 角本裕之進 |

| | | | | |
|----|----|--|--|-------|
| 6 | | 動作を列記する技術を習得する | <ul style="list-style-type: none"> ・第1相～第3相について自身で模倣する ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を記述することができる | |
| 7 | 前期 | 「起き上がりの動作分析」 起き上がりを観察・分析し、その特徴と異常動作を記述する技術を習得する | 「起き上がりの動作分析」 <ul style="list-style-type: none"> ・起き上がりの正常メカニズムを知る ・第1相～第4相について自身で模倣する ・オンエルポー・オンハンドの違いを述べる ・各相で重要な筋を記述する ・観察した動作を分析し、記述することができる | 角本裕之進 |
| 8 | | | | |
| 9 | 前期 | 「座位の動作分析」 座位の観察を行い、特徴を記述することができる | 「座位の動作分析」 <ul style="list-style-type: none"> ・座位を観察する要点を述べる ・静的座位、動的座位の違いについて述べる ・支持基底面とは何か調べる ・座位の筋緊張を実際に触診する | 角本裕之進 |
| 10 | | | | |
| 11 | 前期 | 「立位の動作分析」 立位の観察を行い、特徴を記述することができる | 「立位の動作分析」 <ul style="list-style-type: none"> ・立位を観察する要点を述べる ・立ち直り反応・保護伸展反応を模倣することができる ・立位の筋緊張を触診する ・観察した立位の特徴を予測する | 角本裕之進 |
| 12 | | | | |
| 13 | 前期 | 「立ち上がり・着座の動作分析①」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解する | 「立ち上がり・着座の動作分析①」 <ul style="list-style-type: none"> ・立ち上がりのメカニズムを知る ・立ち上がりの各相を模倣する ・着座の各相を模倣する ・スタビリゼーションストラテジーについて述べる ・モーメンタムストラテジーについて述べる | 角本裕之進 |
| 14 | | | | |
| 15 | 前期 | 「立ち上がり・着座の動作分析②」 立ち上がり・着座のメカニズムを理解し、観察した特徴を記述することができる | 「立ち上がり・着座の動作分析②」 <ul style="list-style-type: none"> ・観察した動作を各相に分けて記述する ・観察した動作を模倣することができる ・異常動作の原因を推論する | 角本裕之進 |
| 16 | | | | |

| | | | | |
|----|----|---|---|-------|
| 17 | 前期 | 「歩行の動作分析①」 歩行の立脚相を理解する | 「歩行動作の動作分析①」 ・歩行とは何か調べる ・歩行率、歩行比とは何か述べる ・ステップ、ステップ長さの違いについて述べる ・立脚相を5相に分け模倣する ・イニシャルコンタクト、ローディングレスポンス、ミッドスタンス、ターミナルスタンス、プレスウィングの特徴を述べる ・ロッカー機能について述べる | 角本裕之進 |
| 18 | | | | |
| 19 | 前期 | 「歩行動作の動作分析②」 歩行の遊脚相を理解する | 「歩行動作の動作分析②」 ・遊脚相を3相に分け模倣できる ・遊脚相のメカニズムを述べる ・ウィンドラスメカニズムについて述べる | 角本裕之進 |
| 20 | | | | |
| 21 | 前期 | 「食事の動作分析」 ・食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を推論する | 「食事の動作分析」 ・食事動作に必要な運動要素を述べる ・食事動作を細分化することができる ・実際の食事動作を行う ・観察した内容を記載する | 角本裕之進 |
| 22 | | | | |
| 23 | 前期 | 「更衣の動作分析」 食事動作を観察し、動作観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る | 「更衣の動作分析」 ・更衣の着脱を実際に行う（参加する） ・衣服の部位を述べることができる ・片麻痺患者の更衣方法を実施する ・観察した動作を具体的に記述する | 角本裕之進 |
| 24 | | | | |
| 25 | 前期 | 「排泄の動作分析」 排泄動作を観察し、観察したものを記述することができる ・動作制限の原因を記述する技術を知る | 「排泄の動作分析」 ・排尿、排便について調べる ・排泄動作の動作手順を述べる ・排泄動作の模倣を実施する ・観察した動作に関して記述する ・動作制限の原因を推測する | 角本裕之進 |
| 26 | | | | |
| 27 | 前期 | 「入浴の動作分析」 入浴動作を観察し、観察したものを項目に分け、記述することができる | 「入浴の動作分析」 ・入浴動作の特徴を述べる ・入浴動作の運動項目を具体的に述べる ・観察した入浴動作の特徴を列挙する | 角本裕之進 |
| 28 | | | | |
| 29 | 前期 | 「整容の動作分析」 整容動作を観察し、観察したもの | 「整容の動作分析」 ・整容動作の運動項目を具体的に述べる | 角本裕之進 |

| | | | | |
|--------|---|--|---|-------|
| | | を項目に分け、記述することができる | ・観察した入浴動作を、運動項目に沿って記述する | |
| 30 | 前期 | まとめと試験 実際の映像を元に動作分析を行い、記述する 動作分析によって推測された異常動作の原因を推測する技術を修得する | 本授業で学んだ、正常メカニズムを理解し、比較することで異常動作の分析が可能になる。 異常動作の原因を推測する | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 基本動作等の映像を見て動作分析を行う筆記試験（100 点）、60 点以上を合格とする。 | | | |
| 準備学習など | 運動学 I の事項を理解しておくことが望ましい | | | |
| 留意事項 | | | | |

| | |
|----------|------------------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 内科学 |
| 担当者 | 齋藤 研 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版（医学書院）、 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 内科学は、臨床を行う上で、重要な科目です。作業療法士の国家試験では、出題数は少ないものの、狭く深い内容が問われています。それゆえ、疾患と症状から臨床像の理解を深めます。講義は臨床現場で経験している医師が担当します。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-------------------------------|---|------|
| 1 | 前期 | オリエンテーション、 呼吸器疾患を理解する① | 内科学の重要性を理解し、積極的に理解するよう努めることができる。さらに、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの最重要疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 2 | 前期 | 呼吸器疾患を理解する② | 間質性肺炎や気胸などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 3 | 前期 | 循環器疾患を理解する① | 虚血性心疾患やうっ血性心不全などの疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 4 | 前期 | 循環器疾患を理解する② | 弁膜症や動脈疾患や静脈疾患などについて理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 5 | 前期 | 肝胆膵疾患を理解する① | ウイルス性肝炎や肝硬変などの肝臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 6 | 前期 | 肝胆膵疾患を理解する② | アルコール性肝障害や脂肪肝などの肝疾患および各種胆嚢、膵臓疾患について理解し、それらの特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 7 | 前期 | 血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る① | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 齋藤 研 |

| | | | | |
|--------|----|-------------------------------|--|------|
| 8 | 前期 | 血液、代謝、内分泌、腎臓、膠原病、消化管疾患について知る② | 各分野におけるグループでの討議を通じて、各自の課題を調べ、その課題をプレゼンテーションにより説明できるように準備する。 | 齋藤 研 |
| 9 | 前期 | 血液疾患を理解する | 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、出血性疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 10 | 前期 | 代謝疾患を理解する | 糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、痛風などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 11 | 前期 | 内分泌疾患を理解する | 下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 12 | 前期 | 腎臓疾患および泌尿器疾患を理解する | 腎不全、ネフローゼ症候群なえおの腎臓疾患および泌尿器疾患などについて理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 13 | 前期 | 膠原病疾患を理解する | 慢性関節リウマチ、SLE、皮膚筋炎などの膠原病疾患およびベーチェット病などの膠原病類縁疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 14 | 前期 | 消化管疾患を理解する | 食道疾患、消化性潰瘍などの胃疾患、炎症性腸疾患や腸閉塞などの腸疾患について理解し、その特徴を述べることができる。 | 齋藤 研 |
| 15 | 前期 | 科目修了試験、まとめ | | 齋藤 研 |
| 成績評価方法 | | 科目修了試験（100%）。 合計 100 点満点 | | |
| 準備学習など | | | | |

| | |
|-----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科 2 年次 |
| 科目名 | 神経内科学 |
| 担当者 | 益田 健史 |
| 単位数 (時間数) | 2 単位 (30 時間) |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 授業開始前に配布される講義プリントを使用。 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学（医学書院）、メディカルスタッフのための神経内科学（医歯薬出版株式会社）、内科学（朝倉書店）参照 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 神経内科疾患の全体像を把握し、中枢神経疾患・末梢神経疾患・筋疾患等を中心に理解を深め、その知識を身につける。講義は臨床現場で経験している医師が担当します。 |

| 回 (コマ) | | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|----|---|--|-------|
| 1 | 前期 | 「神経疾患とは」 | <ul style="list-style-type: none"> ・神経疾患の総論・全体像を把握する。 ・神経疾患の症候について理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 2 | 前期 | 「脳血管障害」 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 一過性脳虚血発作 ▶ 脳卒中 <ul style="list-style-type: none"> ・脳出血 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の分類 ・一過性脳虚血発作を理解・説明できる。 ・クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞などを理解・説明できる。 ・その他、外傷性の硬膜外血腫や硬膜下血腫などの頭部の出血について理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 3 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞 ・クモ膜下出血 | | |
| 4 | 前期 | その他頭部の出血 <ul style="list-style-type: none"> ・硬膜下血腫 ・硬膜外血腫 | | |
| 5 | 前期 | 「変性疾患」 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運動ニューロン疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・筋萎縮性側索硬化症 ▶ 錐体外路の変性疾患 | | |

| | | | | |
|--------|----|---|---|-------|
| 6 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病 ・パーキンソン症候群 ▶ 認知症関連の変性疾患 ・ Alzheimer 病 | <p>疾患を理解・説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Alzheimer 病などの認知症関連の変性疾患を理解・説明できる。 ・ 脊髄小脳変性症を理解・説明できる。 | |
| 7 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Lewy 小体型認知症 ・ 前頭側頭葉認知症 (ピック病) ▶ 脊髄小脳変性症 | | |
| 8 | 前期 | <p>「脱髄疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 多発性硬化症 | 多発性硬化症などの脱髄性疾患を理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 9 | 前期 | <p>「筋肉疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重症筋無力症 ・ 筋ジストロフィー | 重症筋無力症・筋ジストロフィーなどの疾患を理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 10 | 前期 | <p>「末梢神経疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ギランバレー症候群 | ギランバレー症候群などの末梢神経疾患を理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 11 | 前期 | <p>「感染症疾患」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 髄膜炎 ・ 脳炎、脳症 | 髄膜炎・脳炎・脳症の違いと特徴を理解する。 | 益田 健史 |
| 12 | 前期 | | | |
| 13 | 前期 | <p>「腫瘍性疾患」</p> | 脳腫瘍の発生由来とその特徴について理解・説明できる。 | 益田 健史 |
| 14 | 前期 | <p>「てんかん」</p> | 2017年に大幅改定された病型分類を中心にてんかんに対する理解を深める。 | 益田 健史 |
| 15 | 前期 | <p>「その他疾患類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高次機能障害など | その他疾患類の理解を深める。 | 益田 健史 |
| 成績評価方法 | | <p>科目終了試験による評価判定。</p> <p>試験は配布プリント内から出題します。</p> | | |
| 準備学習など | | プリントの復習。 | | |
| 留意事項 | | 授業で配布したプリントをファイルして保存する事。 | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 小児科学 |
| 担当者 | 益田 健史 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 講義プリント：標準理学療法学・作業療法学 小児科学第5版（医学書院）、 内科学（朝倉書院）、シンプル病理学（南江堂）参照 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 小児の疾患と障害の特性を理解し、その知識を身につける。 担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---------------------|-----------------------------------|-------|
| 1 | 前期 | 小児科学概論 | 小児の発育と特徴、保健について理解する。 | 益田 健史 |
| 2 | 前期 | 新生児・未熟児疾患 | 新生児・未熟児に生じる特徴的病態を理解する。 | 益田 健史 |
| 3 | 前期 | 先天異常と遺伝病 | 遺伝子・染色体異常及び、環境要因により生じる身体的異常を理解する。 | 益田 健史 |
| 4 | 前期 | 神経・筋・骨系疾患 | 中枢及び末梢性神経疾患、筋・骨系疾患の特徴を理解する。 | 益田 健史 |
| 5 | 前期 | 循環器疾患 I | 先天性心疾患及び後天性心疾患の解剖学的構造・血行動態を理解する。 | 益田 健史 |
| 6 | 前期 | 循環器疾患 II | 同上 | 益田 健史 |

| | | | | |
|--------|----|--------------------------------------|--|-------|
| 7 | 前期 | 呼吸器疾患 | 小児で特徴的に認められる呼吸器疾患を理解する。 | 益田 健史 |
| 8 | 前期 | 消化器疾患 | 先天性及び後天性消化器疾患を理解する。 | 益田 健史 |
| 9 | 前期 | 内分泌・代謝疾患 | 各種ホルモンの働きを知り、代謝疾患の病態・治療を理解する。 | 益田 健史 |
| 10 | 前期 | 血液疾患 | 血球成分・血漿成分の働きを知り、小児で認められる特徴的な血液疾患を理解する。 | 益田 健史 |
| 11 | 前期 | 感染症 | 細菌・ウイルス感染症を中心に、小児に生じる代表的な感染症の診断・治療を理解する。 | 益田 健史 |
| 12 | 前期 | 免疫・アレルギー疾患 | 人体の免疫システムを知り、免疫の関わる疾患の病態・診断・治療を理解する。 | 益田 健史 |
| 13 | 前期 | 腎・泌尿器系疾患、 腫瘍性疾患 | 小児で特徴的に認められる腎疾患を理解する。 小児で特徴的に認められる腫瘍性疾患を理解する。 | 益田 健史 |
| 14 | 前期 | 心身症関連疾患 | 睡眠障害、心身医学的疾患、重症心身障害について理解する。 | 益田 健史 |
| 15 | 前期 | 眼科・耳鼻科的疾患 まとめ | 小児に特徴的な眼科・耳鼻科的疾患を理解する。 | 益田 健史 |
| 成績評価方法 | | 科目終了試験による評価判定。 試験は配布プリント内から出題します。 | | |
| 準備学習など | | プリントの復習。 | | |
| 留意事項 | | 授業で配布したプリントをファイルして保存する事。 | | |

| | |
|----------|-----------------------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 整形外科科学 |
| 担当者 | 大塚嘉久 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 自学自習 |
| 教科書・参考書 | 整形外科科学テキスト 南江堂 標準整形外科科学 第13版 医学書院 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 整形外科疾患について理解を深め、チーム医療の一員としてリハビリテーションを担う作業療法士の実践に寄与することを目的とする。担当教員は、病院等において医師としての臨床経験を活かして授業を行う。 |

| 回 (コマ) | | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|----|-------------------------|--|------|
| 1 | 前期 | 運動器の構造と機能（骨・筋肉・神経） | 「整形外科とは」 整形外科の歴史 取り組みを知る 「骨について知る」 体内における骨の役割について知る | 大塚嘉久 |
| 2 | 前期 | 運動器疾患の診察法（聞く・見る・触る・動かす） | 「筋について知る」 体内における筋の役割について知る 「神経について知る」 体内における神経の役割について知る 「診察法について知る」 運動器の診察法について知る | 大塚嘉久 |
| 3 | 前期 | 画像診断（レントゲン・CT・MRI・エコー） | 「レントゲン・CT・MRI・エコーについて知る」 レントゲン・CT・MRI・エコー各々の特徴 長所短所を知る | 大塚嘉久 |
| 4 | 前期 | 治療法（保存療法と観血的治療） | 「保存療法と観血的治療」 薬物 リハビリ 手術をまなび各々の適応を知る | 大塚嘉久 |
| 5 | 前期 | 外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷など） | 「骨折、脱臼、靭帯損傷」 骨折、脱臼、靭帯損傷をまなび各々の適応を知る | 大塚嘉久 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|------|
| 6 | 前期 | 脊椎疾患 | 「頸椎 胸椎 腰椎」 頸椎 胸椎 腰椎をまなび各々に生ずる疾患を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ | 大塚嘉久 |
| 7 | 前期 | 進行性関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ） | 「変形性関節症、関節リウマチ」 変形性関節症、関節リウマチの病態をまなび各々に対する治療法を知る | 大塚嘉久 |
| 8 | 前期 | 小児整形外科疾患 | 「小児整形外科疾患」 小児の筋骨格系の特徴をまなび生ずる特有の疾患および治療法を知る | 大塚嘉久 |
| 9 | 前期 | 骨軟部腫瘍 | 「骨腫瘍、軟部腫瘍」 骨腫瘍、軟部腫瘍の病態をまなび各々に対する治療法を知る | 大塚嘉久 |
| 10 | 前期 | 関節疾患 1：上肢 | 「肩関節、肘関節」 肩、肘の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ | 大塚嘉久 |
| 11 | 前期 | 関節疾患 2：下肢 | 「股関節、膝関節、足関節」 股、膝、足の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る | 大塚嘉久 |
| 12 | 前期 | 手の外科、末梢神経障害 | 「手関節、手指関節」 手関節、手指関節の特徴をまなび生じやすい病態およびこれに対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ | 大塚嘉久 |
| 13 | 前期 | 高齢者に生じやすい障害 1 | 「骨粗鬆症」 高齢者の骨の特徴をまなび生じやすい病態を知る | 大塚嘉久 |
| 14 | 前期 | 高齢者に生じやすい障害 2 | 「骨折予防」 高齢者の骨の脆弱性に対する治療法を知る 作業療法士のできる役割を学ぶ | 大塚嘉久 |
| 15 | 前期 | 講義のまとめおよび科目修了試験 | 「14回の授業のまとめ」 整形外科の役割を考える 「科目修了試験」(授業にちゃんと参加すれば試験対策は不要な内容です) | 大塚嘉久 |
| 成績評価方法 | | 筆記試験 100点 但し 小テスト 授業への取り組み 11回以上の出席 による点数の増減あり | | |
| 準備学習など | | 臨床科目が増えている時期ですので 就職活動だと思って 興味をもてる学科を見つけてください。整形外科であればうれしいですが。 | | |

| | |
|----------|---------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 社会保障制度論 |
| 担当者 | 加藤孝夫 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 社会保障 第5版 中央法規 |

| |
|-----------------------------|
| 授業概要と目的 |
| 作業療法士の仕事に必要な社会保障制度について概説する。 |

| 回 (コマ) | | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|----|------------------------------------|------------------------------|------|
| 1 | 後期 | 社会保障制度全体の見取り図について理解する。 | 制度の仕組みと給付の形態を説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 2 | 後期 | 社会保障制度の歴史について理解する。 | 時代の背景（政治・経済）と歩みを説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 3 | 後期 | 社会福祉の歴史について理解する。 | 時代の背景（政治・経済）と歩みを説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 4 | 後期 | 生活保護（公的補助）の概要について理解する。 | 基本原理、保護の原則、被保護者の権利と義務を説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 5 | 後期 | 障害者福祉（身体・知的・精神・発達の4障害）の概要について理解する。 | 4つの障害福祉の概要を説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 6 | 後期 | 子ども家庭福祉の概要について理解する。 | 年齢別子ども家庭福祉サービスの体系と概要を説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 7 | 後期 | 社会保障制度の概要について理解する。 | ライフサイクルと社会保障制度の概要を説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 8 | 後期 | (1) 医療制度について理解する。 | 医療制度の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |

| | | | | |
|--------|----|--|--|------|
| 9 | 後期 | (2) 年金制度について理解する。 | 年金制度の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 10 | 後期 | (3) 介護制度について理解する。 | 介護制度の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 11 | 後期 | (4) 手当その他について理解する。 | 手当その他の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 12 | 後期 | (5) 雇用保険について理解する。 | 雇用保険の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 13 | 後期 | (6) 労働災害補償について理解する。 | 労働災害補償の概要について説明できる。 | 加藤孝夫 |
| 14 | 後期 | 自立支援と就労支援 講義全体のまとめ | 自立支援と就労支援について説明することができる 今までの講義全体をまとめることができ、概要を説明することができる。 | 加藤孝夫 |
| 15 | 後期 | 試験とまとめ | レポート課題についてのまとめを行い、レポートを提出することができる。 | 加藤孝夫 |
| 成績評価方法 | | 授業の出席状況とレポート（100点） | | |
| 準備学習など | | 新聞、テレビ、スマホなどで社会保障関係のニュースに関心を持ち見聞きしてください。 | | |
| | | 講義の都度、資料を配布する。 | | |

| | |
|----------|-------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 作業療法概論Ⅱ |
| 担当者 | 田中敏彦 角本 裕之進 |
| 単位数（時間数） | 1単位 （30時間） |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>精神障害分野では、デイリーノート・SOAP・プロセスレコードの作成が出来るようにしていく。一般的レポートの書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人のレポートを教員で採点していく。最終的には実習で使用する報告書の作成を提出する。実習で困らないように指導者とのやり取りも想定して取り組む。</p> <p>身体障害分野では、一般的レポートの書き方を大項目ごとに進めていき、学生個人の作成を教員で採点していく。最終的には一般的レポートの作成ができ、実習で使用する報告書の作成と発表まで行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-------|
| 1 | 後期 | 「精神障害分野のレポート作成方法」 ・精神障害領域におけるレポート作成方法の流れを理解する | ・レポートの心得を学び、実習で提出する記録について学ぶ ・一般的な症例報告の流れを項目ごとに参考資料を見ながら内容を知る | 田中敏彦 |
| 2 | 後期 | 「身体障害分野のレポート作成方法」 ・身体障害領域におけるレポート作成方法の流れを理解する | 「身体障害分野のレポート作成方法」 ・身体障害領域におけるレポート作成の項目を述べる ・身体障害領域のレポートについて、参考資料を見せて流れを知る ・検討症例の情報を提示し、知らない言葉を調べる | 角本裕之進 |
| 3 | 後期 | 「デイリーノート」 「SOAP」 ・それぞれの記入の仕方を理解する | ・デイリーノートに記入する項目を理解し、実際作成する ・SOAPの頭文字を理解する ・客観的と主観的の区別ができる | 田中敏彦 |
| 4 | 後期 | 「評価項目の列挙」 検討症例に必要な評価項目を列挙できる | 「評価項目の列挙」 ・提示された情報から問題とされるADL障害を抜粋する | 田中敏彦 |

| | | | | |
|----|----|---|--|-------|
| | | 評価項目を列挙する根拠を述べる ことができる | <ul style="list-style-type: none"> ADL 障害の原因となる機能障害を推論する 推論した項目を立証するための項目を教科書から調べる | |
| 5 | 後期 | 「プロセスレコード」 <ul style="list-style-type: none"> プロセスレコードの必要性を学び、記入の仕方を理解する | <ul style="list-style-type: none"> 例題を 2 人組になり読み上げる 実際にあった自分の出来事を 2 人で会話をして SOAP を作成する | 田中敏彦 |
| 6 | 後期 | 「精神障害分野の評価のまとめ」 <ul style="list-style-type: none"> 評価のまとめを理解する | <ul style="list-style-type: none"> 心身の基本的機能 日常生活能力 作業遂行能力 対人関係能力 <p>の 4 つに分けて客観的情報を分類できる</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員がチェックして出来るまで提出をする | 田中敏彦 |
| 7 | 後期 | 「評価のまとめ」 | <p>「評価のまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価のまとめに記載する項目を述べる 各評価結果の情報を簡潔に記述することができる 必要な情報を選択することができる 客観的な情報のみを記述することができる | 角本裕之進 |
| 8 | 後期 | 「精神障害分野の ICF」 <ul style="list-style-type: none"> 評価のまとめから ICF に分類する | <ul style="list-style-type: none"> 利点と問題点を箇条書きにして ICF へ分類し、問題の焦点化をする 教員がチェックして出来るまで提出する | 田中敏彦 |
| 9 | 後期 | 「統合と解釈」 <ul style="list-style-type: none"> 統合と解釈の流れを理解する 統合と解釈の作成方法を理解する | <p>「統合と解釈」</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合と解釈の意味を説明できる 問題点となる ADL 動作を列挙することができる 動作障害と検査結果を関連付けることができる 予後予測をすることができる 原因を同定することができる | 角本裕之進 |
| 10 | 後期 | 「精神障害分野の統合と解釈」 <ul style="list-style-type: none"> 統合と解釈の内容を理解し、作成できる | <ul style="list-style-type: none"> 評価のまとめから自分の解釈を入れていき作成する 問題点の焦点化を取り入れて統合する 解釈の方向性と流れの資料を参考にして作成する | 田中敏彦 |

| | | | | |
|--------|---|---|--|-------|
| 11 | 後期 | 「精神障害分野の実習でのレポート」 ・実際に臨床実習で提出する書式にて作成できる | ・評価のまとめ、ICF、1 番気になる問題点、治療計画、目標を出して実際に作成する | 田中敏彦 |
| 12 | 後期 | 「短期・長期目標」 短期・長期目標の作成方法を習得する | 「短期・長期目標」 ・目標設定とは何か説明できる ・長期目標を列挙することができる ・短期目標を列挙することができる ・長期目標と短期目標の関連付けができる | 角本裕之進 |
| 13 | 後期 | 「治療プログラム」 治療プログラムを立案することができる 根拠のある治療プログラムが立案できる | 「治療プログラム」 ・治療プログラム案を列挙することができる ・治療プログラムに対して具体的な方法を挙げることができる ・適切な段階づけができる ・治療方針に対して文献等で調べる ・治療プログラムを症例の状態や全体像に沿った工夫がなされている | 角本裕之進 |
| 14 | 後期 | 「症例報告書作成」 症例報告書を作成することができる 症例報告書の作成方法を理解する | 「症例報告書作成」 ・症例報告書に必要な情報を選択することができる ・症例報告書の項目に沿って列挙することができる ・1 つの活動制限から統合と解釈を述べる ことができる | 角本裕之進 |
| 15 | 後期 | 「症例報告書 発表」 症例報告書の発表する方法を習得する | 「症例報告書 発表」 ・7 分間の時間を守り発表できる ・質疑応答ができる ・発表の着目点を伝えることができる ・明瞭な声量で伝えることができる | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 身障分野の評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する (50%) 精神分野の評価方法はレポートの内容・提出期限で採点する (50%) 合計 100 点 | | | |
| 準備学習など | 特になし | | | |
| 留意事項 | 特になし | | | |

| | |
|----------|-----------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 基礎作業学各論Ⅱ |
| 担当者 | 田中敏彦 |
| 単位数（時間数） | 2単位（60時間） |
| 学習方法 | 実習 |
| 教科書・参考書 | |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 1年次の基礎作業学各論Ⅰで学んだ技法を基礎として、基礎作業学各論Ⅱでは「オリジナル」の作品作りを身につける。即現場で創作活動として使える技法を身につけることを目的とし、活動の身体の動き、心理的側面に与える影響を理解する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 通年 | 「紙芝居作成・発表」 ・自分の生まれてから、現在に至るまでの軌跡を絵と説明文で表現し、他者に伝えることで自己理解・他者理解の重要性を理解する。 | 「出生から現在までを振り返る。」 ・自分の出生時、幼少時の情報収集が出来る。 ・小学校～高校（もしくは社会人）までの印象的な出来事を列挙できる。 ・それらを絵で表現し、説明を加えて反すことが出来る。 | 田中敏彦 |
| 2 | | | | |
| 3 | 通年 | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | 通年 | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | 通年 | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | 通年 | 「塗り貼り絵作成」 ・「ぬり絵」と「貼り絵」という異なる活動の工程を合わせることで同時進行できることを理解する。 | 「ぬり絵」と「貼り絵」の同時作業 ・染色道具（絵具・色鉛筆・クレヨンなど）を選択し、彩色が出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。 | 田中敏彦 |
| 10 | | | | |
| 11 | 通年 | | | |
| 12 | | | | |
| 13 | 通年 | 「貼り絵（トラウトとハコフグ）作成」 ・フォーマット化された活動で行うことで、難易度の段階付けを理解する。 | フォーマット化された貼り絵作成 ・説明書に記載されている通りの色で貼り付けることが出来る。 ・各パーツを正確に切り出し、組み合わせることが出来る。 ・魚以外の背景部分を、同様の方法で作成 | 田中敏彦 |
| 14 | | | | |
| 15 | 通年 | | | |
| 16 | | | | |
| 17 | 通年 | | | |

| | | | | |
|--------|----|--|--|------|
| 18 | | | できる。 | |
| 19 | 通年 | 「割りばし額作成」 ・活動の中に含まれている粗大な運動と、巧緻な運動を理解する。 ・1つの土台での作成方法を体験することで、土台の大きさを変化させる応用的な知識を知る。 | 「粗大運動と巧緻運動」 ・材料となる土台を採寸通りに切り出すことができる。 ・土台に決められた本数の割り箸を貼り付けることができる。 ・割りばしの余分部分を鋸で切り落とすことができる。 ・正確にパーツの接着ができる。 | 田中敏彦 |
| 20 | | | | |
| 21 | 通年 | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | 通年 | | | |
| 24 | | | | |
| 25 | 通年 | 「スイーツデコレーション作成」 ・紙粘土の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。 | 「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して、アイスクリームの形を作成できる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。 | 田中敏彦 |
| 26 | | | | |
| 27 | 通年 | 「デコパージュ作成」 ・ケマージュ液の素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。 | 「手指の巧緻動作」 ・道具を使用して石鹼デコパージュを2個作成することができる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。 | 田中敏彦 |
| 28 | | | | |
| 29 | 通年 | 「レジンアート作成」 ・レジンの素材の特徴と手指の動き（把握・つまみ）を理解する。 ・短時間で作成できるアクティビティを知ることで、達成感の重要性を理解する。 | 「手指の巧緻動作」 ・道具を使用し、2個の題材を使って作品を2個作成できる。 ・作成時に使用される身体の部分を理解できる。 | 田中敏彦 |
| 30 | | | | |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって成績評価の対象とする。 7つの作品をすべて完成させ提出すること。 提出状況と作品の完成度で評価する。(100点) | | |
| 準備学習など | | | | |

| | |
|----------|---------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2 学年 |
| 科目名 | 基礎作業学各論Ⅲ |
| 担当者 | 木村 映美 |
| 単位数（時間数） | 1 単位（30 時間） |
| 学習方法 | 講義と演習 |
| 教科書・参考書 | ・サブノート・音楽ノート（学校で配布） |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>主にキーボードの演奏技法を中心に学ぶ。両手で 1 曲弾けるようにし、実際の臨床現場でのレクリエーションに活用できるようにする。また、音楽とリハビリとの関係性を理解することで、治療内容に取り入れる事が出来る。</p> <p>音楽の基礎知識から学ぶことで初心者でも安心して習得できる。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|------|
| 1 | 後期 | 「音楽と作業療法」 ・音楽療法と歴史を理解し、音楽と作業療法の効果を知る。 | ・音楽療法とは何かを理解し、作業療法で音楽を用いる目的や効果を知ることが出来る。 | 木村映美 |
| 2 | 後期 | 「音楽の基礎知識」 ・初心者でも基礎知識を習得できる。 ・簡単譜面が描けるようになる | ・音の名前、長さ、種類、休符、拍子の記号について述べる ・譜面の読み方を演習する ・臨時記号、速度・強弱について述べる ・コードを確認する ・初心者でも読める譜面を作成する | 木村映美 |
| 3 | 後期 | 「キーボード操作」 ・キーボードの操作方法を習得する。 | ・グループに分かれ、キーボードのボタンを理解し実際に弾いてみる ・指番号の基本を練習する | 木村映美 |
| 4 | 後期 | 「キーボード演習」① ・右手が弾けるようになる | ・指番号通りに何度も練習をする | 木村映美 |
| 5 | 後期 | 「キーボード演習」② ・右手がスムーズに弾けるようになる | ・指番号通りに何度も練習をする | 木村映美 |
| 6 | 後期 | 「キーボード演習」③ ・左手が弾けるようになる | ・コードの位置と種類を覚える | 木村映美 |

| | | | | |
|--------|----|---|--|------|
| 7 | 後期 | 「キーボード演習」④ ・左手がスムーズに弾けるようになる | ・主旋律を歌いながら左手でコードが押さえることができる | 木村映美 |
| 8 | 後期 | 「キーボード演習」⑤ ・両手で弾いてみる | ・両手で弾けるように何度も練習し、つまずく小節を繰り返し練習する | 木村映美 |
| 9 | 後期 | 「キーボード演習」⑥ ・両手で弾けるようになる | ・両手で弾けるように何度も練習し、つまずく小節を繰り返し練習する | 木村映美 |
| 10 | 後期 | 「キーボード演習」⑦ ・両手でスムーズに弾けるようになる | ・両手で弾けるように何度も練習し、つまずく小節を繰り返し練習する | 木村映美 |
| 11 | 後期 | 「キーボード演習」⑧ ・キーボードのリズムとトーンを作動させて合わせていく | ・キーボードのリズムとトーンに合わせて練習する | 木村映美 |
| 12 | 後期 | 「キーボード演習」⑨ ・リズムとトーンとテンポを作動させて合わせていく | ・キーボードのリズムとトーンとテンポに合わせて練習する | 木村映美 |
| 13 | 後期 | 「キーボード演習」⑩ ・自分一人でキーボード操作から出来るようになる ・1曲スムーズに弾けるようになる | ・実際に演奏できるように最初から1人で操作できるように確認をする ・1曲スムーズに弾けるようになるまで練習をする | 木村映美 |
| 14 | 後期 | 「まとめと試験」① ・レクリエーションなどの活動で弾けるようになる | ・クラス全員の前で弾けるように発表する ・つまずいても音楽を途切れさせないようにしていく ・クラス全員に歌ってもらう | 木村映美 |
| 15 | 後期 | 「まとめと試験」② ・レクリエーションなどの活動で弾けるようになる | ・クラス全員の前で弾けるように発表する ・つまずいても音楽を途切れさせないようにしていく ・クラス全員に歌ってもらう | 木村映美 |
| 成績評価方法 | | 授業態度 10 点 実技試験 90 点 合計 100 点 | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|----------|-------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 作業療法管理学 |
| 担当者 | 田中 敏彦・山内 太郎 |
| 単位数（時間数） | 2単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 特になし 適宜講義の際に配布 |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>・組織を運営していく上での必要となるリスクマネジメントや安定した運営を行うために必要となる経営管理について、学び将来現場に出て組織のために何ができるのかを考えることができる人材の育成を目指していく。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|---|------|
| 1 | 後期 | 「リハビリテーションにおける管理」 リハビリテーション領域における職場管理の概要を理解する。 | 「自らが成長することへの支援」 人材育成マネジメント (OJT・Off-JT) の内容を述べることができる。 | 田中敏彦 |
| 2 | 後期 | 「組織化」 職員配置と業務の組織化の概要を理解できる。 | 「部門別体制と病棟・疾患別体制」 それぞれの体制の違いと特徴を述べる事が出来る。 | 田中敏彦 |
| 3 | 後期 | 「業務管理」 さまざまな種類の医療提供施設における業務管理の概要を理解できる。 | 「急性期・回復期・療養病棟・訪問・通所・介護保険施設の管理」 それぞれの施設、場所の管理方法の違いと特徴を述べる事が出来る。 | 田中敏彦 |
| 4 | 後期 | 「教育システム」 資格取得後の研鑽の必要性について理解できる。 | 「医療専門職の継続教育」 作業療法士をはじめリハビリテーション専門職が獲得すべき能力について述べる事が出来る。 | 田中敏彦 |
| 5 | 後期 | 「人材育成手法」 人材育成のための種々の技法を理解することができる。 | 「コーチングとティーチング、Kolbの学習モデル」 コーチングとティーチングの技法についての違い・特徴を述べる事が出来る。 | 田中敏彦 |

| | | | | |
|--------|----|--|--|--------------|
| 6 | 後期 | 「リーダーシップとマネジメント」 リーダーシップとマネジメントの概要を理解できる。 | 「管理者に必要なリーダーシップとマネジメント」 リーダーシップとマネジメントを比較し、内容と違いを説明できる。 | 田中敏彦 |
| 7 | 後期 | 「OT 協会と県士会」 OT 協会と県士会の目的と活動を理解できる。 | 「協会と県士会の目的と役割」 OT 協会と県士会の目的と役割を説明できる。 | 田中敏彦 |
| 8 | 後期 | リスクマネジメントについて学ぶ① | グループにて職場におけるリスクには、何かがあるかを考え列挙することができる。 インシデントやアクシデントとは何か答えることができる | 山内太郎 |
| 9 | 後期 | リスクマネジメントについて学ぶ② | 苦情対応について、いろいろな苦情の実例を聞き、対処方法を考え発表することができる | 山内太郎 |
| 10 | 後期 | 経営管理について学ぶ | 経営とは何かを答えることができる 人件費率など経営に必要な用語や収益がどのような流れで、給与に代わるのかを知ることができる | 山内太郎 |
| 11 | 後期 | 介護保険事業立ち上げについて学ぶ① | グループにて、デイサービスの立ち上げプランを立てることができる① | 山内太郎 |
| 12 | 後期 | 介護保険事業立ち上げについて学ぶ② | グループにて、デイサービスの立ち上げプランを立てることができる② 発表用にプランをまとめることができる。 | 山内太郎 |
| 13 | 後期 | 介護保険事業立ち上げについて学ぶ③ | 全体に向けてプランを発表することができる① | 山内太郎 |
| 14 | 後期 | 介護保険事業立ち上げについて学ぶ④ | 全体に向けてプランを発表することができる② | 山内太郎 |
| 15 | 後期 | 「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を確認する。 | 各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験などを利用して書面で説明できる。 | 田中敏彦 山内太郎 |
| 成績評価方法 | | 本試験（田中 50 点+山内 50 点）にて成績評価する。合計 100 点 | | |
| 準備学習など | | 身近にある具体的な活用例があれば気に留めておくとよい。 | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 老年期障害評価学 |
| 担当者 | 角本 裕之進 本多 亜希子 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・老年期の作業療法（三輪書店） ・サブノート（毎回配布） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>作業療法士が臨床で必ず出会う「高齢者」について、様々な面からアプローチし医療的な対応のポイントを習得する。リハビリテーションを行う前に知っておかなければならない「高齢者に関する医学的知識」を整理し、そのうえで作業療法士の行う評価法に触れていく。また認知症のリハビリテーションについても作業療法士に期待される部分は大きく、必須の知識について整理し理解を深める。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-------------------------------------|---|--------|
| 1 | 後期 | CTとMRIについて① CTやMRIのメカニズムについて理解する | 「CTとはなにか」 CTのメカニズムを述べるができる CTの特徴を述べるができる スライドの部位を述べるができる | 角本 裕之進 |
| 2 | 後期 | CTとMRIについて② CTやMRIのメカニズムについて理解する | 「MRIとはなにか」 MRIのメカニズムを述べるができる MRIの特徴を述べるができる 各スライドの部位を述べるができる | 角本 裕之進 |
| 3 | 後期 | CTとMRIについて③ 様々なCT、MRI所見を理解、解釈する | 「CTで理解すべき所見」 CTより脳出血部位を述べるができる 損傷部位で生じる可能性がある、障害名を答えることができる | 角本 裕之進 |
| 4 | 後期 | CTとMRIについて④ 様々なCT、MRI所見を理解、解釈する | 「MRIで理解すべき所見」 MRIより脳梗塞部位を述べるができる | 角本 裕之進 |

| | | | | |
|----|----|--|---|--------|
| | | | 損傷部位で生じる可能性がある、障害名を答えることができる | |
| 5 | 後期 | 「リハビリテーション導入時の注意事項」 具体的なリハビリテーションの治療に入る前に、確認しておかなければならない重要事項について理解する。 | 「リハビリテーションの導入初期」 ・リスク管理 ・バイタルサイン ・リハビリテーションの実施基準 などについて、個別・具体的な数値とともに学習し、説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 6 | 後期 | 「老年期作業療法の基本」 高齢者の医療について、特に気をつけておくべき点について知識を整理し、理解する。 | 「高齢者のリハビリテーション」 ・座位姿勢と覚醒 ・脱水 など、高齢者のリハビリテーションにおいて必要な基本的医学知識を説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 7 | 後期 | 「老年期作業療法の注意点」 ・介護保険関連の福祉用具について概要を整理し、使用方法を知り、理解する。 | 「福祉用具の活用」 ・どのような場面で、どういう福祉用具を用いるか、具体例をもとに学習し、説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 8 | 後期 | 「認知症」① 認知症の評価方法を習得する前に、認知症に関する基本事項について学習し、理解する。 | 「認知症の基本」 ・記憶の分類 ・認知症の基本 ・四大認知症 について、説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 9 | 後期 | 「認知症の評価」① 認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。 | 「認知症の評価」 ・認知症の評価方法：総論 ・HDS-R ・MMSE について実習し、説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 10 | 後期 | 「認知症の評価」② 認知症の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。 | 「認知症の評価」 ・前頭葉機能検査 ・FAB ・CDR ・FAST について説明できる。 | 本多 亜希子 |

| | | | | |
|----|----|---|--|--------|
| | | 「老年期作業療法の評価」 高齢者の評価方法について、知識と技術を知り、理解する。 | 「老年期作業療法の評価」 ・興味関心チェックリスト | |
| 11 | 後期 | 老年期の評価方法① 老年期分野で使用する高次脳機能障害について理解する | 高次脳機能評価 ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS における評価の項目を列挙することができる 各評価項目を述べることができる | 本多 亜希子 |
| 12 | 後期 | 老年期の評価方法② 老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる | 高次脳機能評価 ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS ・ 各評価の目的を述べることができる ・ 各評価の説明をすることができる | 本多 亜希子 |
| 13 | 後期 | 老年期の評価方法③ 老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価の目的を説明することができる | 高次脳機能評価 ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS を実施することができる | 本多 亜希子 |
| 14 | 後期 | 老年期の評価方法④ 老年期分野で使用する高次脳機能障害に対する各評価を実施することができる | 高次脳機能評価 ・ CAT ・ BIT ・ RBMT ・ BADS を実施し、結果を報告できる ・ 各項目の結果より推論することができる ・ 各項目の結果を基に、問題点を列挙することができる | 本多 亜希子 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|--------|
| 15 | 後期 | <p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について総まとめを行い、基本用語の確認を行い、理解する。 | <p>「まとめと試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者の心身の変化」及び「認知症の基本」「認知症の評価」について知識を整理し、基本用語の確認を行う。また、国家試験の過去問題に触れ、どのようなことが重要事項なのか説明できる。 | 本多 亜希子 |
| 成績評価方法 | | <p>出席点 10 点 筆記試験 90 点 合計 100 点</p> | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |

| | |
|----------|-----------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 身体障害評価学Ⅱ |
| 担当者 | 角本 裕之進 |
| 単位数（時間数） | 1単位 （30時間） |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | 標準作業療法学 作業療法評価学 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>作業療法評価とは、目標を達成するための効果的な治療計画を立てるために明確な障害像を把握することであるとされ、作業療法を実施するにあたり評価は欠かすことはできない。本授業では特に身体障害領域に関する作業療法評価の習得を目的とする。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-------|
| 1 | 前期 | 「オリエンテーション」 「作業療法評価とは」 ・作業療法評価の内容を理解する ・作業療法評価の流れを理解する ・ | 「評価とは」 ・作業療法評価の目的を列記する ・作業療法評価時期について述べる ・各情報の種類（基本情報、医学的情報、他部門情報）を述べる ・各評価方法の種類（観察、面接、検査、測定）を述べる ・統合と解釈、治療目標、治療プログラムについて述べる | 角本裕之進 |
| 2 | | 「バイタルサインについて」 ・バイタルサインの概要を理解する ・意識レベルの評価、血圧測定技法を身につける | 「バイタルサインについて」 ・バイタルサインとは何か述べる ・意識の種類について述べる ・JCSを実施する ・触診可能な動脈に触れる ・血圧を測定する | |
| 3 | 前期 | 「ブルンストロームステージについて」 ・ブルンストローム検査技法を身につける | 「ブルンストロームステージについて」 ・BRSの段階を述べる ・BRS各レベルについて模倣できる ・屈筋共同運動と連合反応の違いを調べる ・BRS検査を学生同士で実施する | 角本裕之進 |
| 4 | | ・脳卒中片麻痺の回復段階を理解する | | |

| | | | | |
|----|----|---|---|-------|
| 5 | 前期 | 「腱反射について」 腱反射の検査技法を身につける 腱反射の目的を理解する | 「腱反射について」 ・ 腱反射の特徴と意義を述べる ・ 錐体路障害と反射弓の違いを調べる ・ イエンドラシック法とは何か述べる ・ 打腱器の操作を熟練する ・ 検査における留意点を述べる ・ 検査する筋肉を列記することができる ・ 結果の記録方法を説明する | 角本裕之進 |
| 6 | | 「病的反射について」 病的反射の検査技法を身につける 病的反射の目的を理解する | 「病的反射について」 ・ 腱反射の特徴と意義を述べる ・ 病的反射の項目を述べる ・ 病的反射の検査方法を模倣する ・ 結果の記録方法を説明する | 角本裕之進 |
| 7 | 前期 | 「立ち直り反応について」 立ち直り反応の検査技法を身につける | 「立ち直り反応について」 ・ 反射と反応の違いについて述べる ・ 立ち直り反応の種類について述べる ・ 立ち直り反応について模倣する ・ 立ち直り反応の検査を実施する | 角本裕之進 |
| 8 | | 「平衡反応について」 平衡反応の検査技法を身につける | 「平衡反応について」 ・ 重心移動の大きさによる姿勢制御の戦略について述べる ・ 保護伸展反応を模倣する ・ 保護伸展反応の検査を実施する ・ FBS を実施する ・ FRT を実施する | 角本裕之進 |
| 9 | 前期 | 「感覚検査について」 ・ 感覚検査の検査技法を身につける ・ 感覚に関する伝導路を理解する | 「感覚検査について」 ・ 感覚と知覚の違いについて述べる ・ 感覚評価の意義を列記する ・ 感覚神経の伝導路を記述する ・ 感覚検査の判定基準を述べる ・ 各感覚検査を模倣・実施する ・ 検査器具の名称を述べる | 角本裕之進 |
| 10 | | | | |
| 11 | 前期 | 「STEF について」 ・ STEF の検査技法を身につける | 「STEF について」 ・ 実施に関する注意点を述べる ・ 検査をする点の観察要点を述べる ・ 検査の説明ができる ・ 各項目の模倣・実施する | 角本裕之進 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|-------|
| 12 | | 「協調性検査について」 協調性の検査技法を身につける | 「協調性検査について」 ・協調性検査の意義と目的を述べる ・失調症の種類を述べる ・失調症の種類を模倣する ・協調性検査を模倣・実施する | 角本裕之進 |
| 13 | 前期 | 「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の技法を身につける ・筋緊張に関わる用語を理解する | 「筋緊張検査について」 ・筋緊張検査の意義と目的を述べる ・筋緊張亢進と低下の違いを述べる ・痙縮と固縮の違いを説明できる ・錐体路障害と錐体外路障害の違いを説明できる ・主観的検査で視診することができる ・MAS テストを模倣・実施する ・ADL の影響を述べる | 角本裕之進 |
| 14 | | 「脳神経検査について」 ・脳神経検査の技法を身につける ・ | 「脳神経検査について」 ・脳神経検査の意義と目的を述べる ・12 神経の名称を述べる ・各検査方法を模倣・実施する | 角本裕之進 |
| 15 | 前期 | 「まとめと試験」 身体障害領域に関する作業療法 評価を理解する | 「まとめと試験」 ・身体障害領域における作業療法評価を 実施できる ・各評価の検査目的を述べる ・正しい方法と、安全に配慮して実施する | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 実技試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。 評価方法は所定のルーブリック評価法を使用し採点する | | |
| 準備学習など | | 脳卒中に関する知識を習得しておく 解剖・生理学を復習しておくこと | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 精神障害治療学 I |
| 担当者 | 田中敏彦・木村映美 |
| 単位数（時間数） | 2単位（60時間） |
| 学習方法 | グループワークと講義 |
| 教科書・参考書 | ・サブノート（毎回配布） ・精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 中央法規 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 精神科における各疾患の理解とともに、それぞれの疾患における作業療法の展開を理解する。 基本的な作業療法プログラム・援助方法を立案できる知識と技術を習得し、実際の臨床現場でのエピソードも交え精神科の治療を理解することが出来る。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-----------------------------|---|------|
| 1 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」① ・精神機能の構造を知る | ・意識（質的、量的） ・知能（IQ） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める | 田中敏彦 |
| 2 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」② ・精神機能の構造を知る | ・思考（思考体験・内容・思路の異常） ・知覚（視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める | 田中敏彦 |
| 3 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」③ ・精神機能の構造を知る | ・感情（情動、気分、情性、その他） ・意欲（亢進、減退） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める | 田中敏彦 |
| 4 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」④ ・精神機能の構造を知る | ・行動（程度、内容） ・記憶（記銘、保持、追想、再認、その他） についてサブノート・教科書・国試過去問 を使用して理解を深める | 田中敏彦 |
| 5 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」⑤ ・精神機能の構造を知る | ・作業療法士の立場、連携 臨床現場での内容と合わせて理解を深める | 田中敏彦 |

| | | | | |
|----|----|--|---|------|
| 6 | 前期 | 「精神機能の基礎知識」⑥ ・精神機能の構造を知る | ・OT 評価の流れ 臨床現場での内容と合わせて理解を深める | 田中敏彦 |
| 7 | 前期 | 「統合失調症 急性期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療 を知る | ・陽性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・実際の現場の体験を踏まえて想像しやすくなる ・OTや多職種の治療を知る | 木村映美 |
| 8 | 前期 | 「統合失調症 急性期②」 ・作業活動の選択 ・環境調整 ・作業療法士の対応技術を理解する | ・基本的な作業活動の内容を学び、国試過去問を解きながら理解を深める ・環境の刺激内容を知り、国試過去問を解きながら理解を深める ・妄想、幻聴の対応や声掛けの技術を知り、国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 |
| 9 | 前期 | 「統合失調症 回復期①」 ・状態像の理解 ・生じやすい問題 ・行われる治療 を知る | ・陰性症状を基礎知識で学んだ語句と照らし合わせ理解を深める ・長期入院の問題点を理解する ・薬物療法と退院に向けたリハビリテーションを学ぶ | 木村映美 |
| 10 | 前期 | 「統合失調症 回復期②」 ・作業療法の視点 ・OTの実践と対応技術 ・社会復帰間近の就労支援 を理解する | ・問題点より利点を活用し、OTとの関係づくりの大切さを知る ・退院後の生活を想像できるプログラム立案を、国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 |
| 11 | 前期 | 「気分障害 ①」 ・気分障害を理解する | ・単極性うつ病、双極性障害、単極性躁病の違いを理解する（グラフを用いる） ・うつ病と躁病の特徴を基礎知識で学んだ語句と合わせて理解を深める | 木村映美 |
| 12 | 前期 | 「気分障害 ②」 ・経過と予後を理解する ・うつ病、躁病の治療法を知る | ・自殺の危険性の時期や再発の可能性を知る ・休養の必要性、薬物療法、精神療法を知る | 木村映美 |
| 13 | 前期 | 「気分障害 ③」 ・うつ病の急性期と回復期の作業療法を知る | ・うつ病の急性期と回復期の状態像を知ることによって作業の選択のポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 |

| | | | | |
|----|----|---|--|--------------|
| 14 | 前期 | 「気分障害 ④」 ・躁病の急性期と回復期の作業療法を知る | ・躁病の急性期と回復期の状態像を知ること とで作業の選択ポイントを理解出来る ・国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 |
| 15 | 前期 | 「神経症」 ・「パニック障害」の特徴と作業療法を知る | ・パニック障害の症状を知り、治療法を知る ・作業療法の展開を学んだ上で、国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 16 | 前期 | 「神経症」 ・「解離性（転換性）障害」の特徴と作業療法を知る | ・解離性と転換性の症状を知る ・経過、予後、治療法を学び作業療法の展開やかかわり方を理解する ・国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 17 | 前期 | 「神経症」 ・「強迫性障害①」の特徴を知る | ・強迫性障害の概念を知り、症状を理解する | 木村映美 田中敏彦 |
| 18 | 前期 | 「神経症」 ・「強迫性障害②」の作業療法を知る | ・疫学や治療法を学ぶ ・作業療法での問題点を理解し作業活動の選択を学ぶ ・国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 19 | 前期 | 「境界性パーソナリティー障害①」 ・分類や特徴を理解する | ・境界性パーソナリティーの症状や治療法を学ぶ | 木村映美 田中敏彦 |
| 20 | 前期 | 「境界性パーソナリティー障害②」 ・作業療法の治療法やかかわりを理解する | ・作業療法士のかかわりで生じる問題を例文と照らし合わせて理解する ・個別での OT と集団での OT を国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 21 | 前期 | 「摂食障害①」 ・摂食障害の症状と病因を理解する | ・摂食障害にみられる特徴を国試の過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 22 | 前期 | 「摂食障害②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解する | ・国試の過去問の例題を参考にして、大切な語句やかかわり方を理解することが出来る | 木村映美 田中敏彦 |
| 23 | 前期 | 「てんかん①」 ・てんかんの種類を知る | ・全般発作と部分発作の違いがわかる ・全般発作の 6 つの特徴を理解する ・部分発作の 2 つの特徴を理解する | 木村映美 田中敏彦 |
| 24 | 前期 | 「てんかん②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・作業療法の展開を理解し、かか | ・発作時の対応、薬物療法、生活指導等を学び、国試の過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |

| | | | | |
|--------|----|--|--|--------------|
| | | わりのポイントを知る | ・生じやすい問題点とかかわりの注意点を理解する | |
| 25 | 前期 | 「依存症①」 ・依存症の種類を知る ・アルコール依存症と薬物依存症の違いを理解する | ・精神依存と身体依存の違いを学び、離脱症状の内容等を、国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 26 | 前期 | 「依存症②」 ・経過、予後、治療法を理解する ・依存症の作業療法を知る | ・依存症の評価するポイントと問題点を理解し目標と方向性を示すことが出来る ・かかわりのポイントを、国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 27 | 前期 | 「小児精神障害（自閉症）」 ・自閉症の種類を理解する ・自閉症の特徴がわかる | ・自閉症とアスペルガーの違いを表や図を見て理解する ・自閉症の特徴をマンガや絵で理解する | 木村映美 田中敏彦 |
| 28 | 前期 | 「アスペルガー症候群、AD/HD」 ・アスペルガーの特徴を理解する ・AD/HDの特徴を理解する | ・アスペルガーとAD/HDの特徴をマンガや絵で理解する ・国試過去問を解きながら理解を深める | 木村映美 田中敏彦 |
| 29 | 前期 | 「まとめ」 ・精神科の病気の種類が理解できる ・各疾患の特徴を理解し、作業療法の治療を知る | ・統合失調症、気分障害、神経症（パニック障害・解離性転換性障害、強迫性障害、境界性パーソナリティ障害、摂食障害、てんかん、依存症、自閉症、アスペルガー、AD/HD）が出るようになる | 木村映美 田中敏彦 |
| 30 | 前期 | 「まとめと試験」 ・疾患の特徴を理解出来る ・国家試験の過去問が解けるようになる | ・各疾患の特徴となる語句がつながるようになる ・試験に向けて国試の過去問を解く | 木村映美 田中敏彦 |
| 成績評価方法 | | 授業態度・出席点 10点 筆記試験 90点 合計 100点 | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|----------|-----------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 精神障害治療学Ⅱ |
| 担当者 | 田中敏彦・木村映美 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | 適宜資料配布 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>精神科病院での問題点を知り、実際に治療計画を立てていく。また、グループでのプログラム立案と発表をすることで、多くの考え方や治療方法を理解する。</p> <p>アクティビティでは実際にプレーをして、精神科で行われる頻度の高いスポーツのルールや道具を理解する。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|--|------|
| 1 | 後期 | 「臨床現場の紹介」 ・精神科病院の概要を知り、 問題点が理解できる ・問題点から治療立案を考える | ・実際の病院を知ることによって精神科の内容が理解できる ・問題点を参考にしてグループで治療計画を話し合う | 木村映美 |
| 2 | | | | |
| 3 | 後期 | 「治療立案作成」 ・グループで治療計画を立案し、 発表出来るようにまとめる | ・グループ内で治療計画を話し合い、 目的、準備内容、治療内容、方法、リスク管理、注意点等を細かく出す ・パワーポイントを使用し7分以内にまとめる | 木村映美 |
| 4 | | | | |
| 5 | 後期 | 「治療立案発表」 ・グループで立案したプログラムの発表をする ・臨床現場で実際に行ったプログラムを理解する | ・グループの発表を聞いて、様々な治療プログラムを知る ・自分たちに無かったアイデアや工夫している点などを学ぶ ・教員が臨床現場で行った内容を紹介して問題点への考え方や実際のエピソードも聞き理解を深める | 木村映美 |
| 6 | | | | |
| 7 | 後期 | 「精神科のアクティビティ①」 ・精神科で行われる頻度の高いバルバレーを行う上で必要な道具・ルールを理解する。 | 「バルバレーの体験」 ・バルバレーの道具・準備を理解できる。 ・バルバレーのルールを理解できる。 ・バルバレーを自分で行うことが出来る。 | 田中敏彦 |
| 8 | | | | |

| | | | | |
|--------|----|--|--|--------------|
| 9 | 後期 | 「精神科のアクティビティ②」 ・精神科で行われる頻度の高い卓球を行う上で必要な道具・ルールを理解する。 | 「卓球の体験」 ・卓球の道具（通常ボールとラージボールの違い）が理解できる。 ・卓球のルールを理解できる。 ・卓球を自分で行うことができる。 | 田中敏彦 |
| 10 | | | | |
| 11 | 後期 | 「対象者への接触の仕方」 「治療と社会化」 ・患者との接触の仕方の基礎知識と接触が困難な時の対応を理解する。 ・社会化の意味を理解し、精神科での治療に反映して考える。 | ・接触を拒む患者への対応策を自分で2つ以上考えることができる。 ・「13番目の客」の感想文として、精神科での治療における社会化の必要性を理解できる。 | 田中敏彦 |
| 12 | 後期 | 「面接演習・ロールプレイ」 ・設定場面にて面接者・患者・観察者の役割を行い、面接に必要な態度を理解する。 ・設定場面にて作業療法実習生役の演技を見て、患者に対するコミュニケーションの取り方を理解する。 | 「面接とコミュニケーションのロールプレイ」 ・3人1組での面接のロールプレイで、面接者役・患者役・観察者役の3役を行うことができる。 ・観察者として面接者に客観的なコメントができる。 ・業療法実習生役の演技を見て、自分の場合の対応策を述べることができる。 | 田中敏彦 木村映美 |
| 13 | 後期 | 「コミュニケーション演習」 ・初対面の人に対して、挨拶の後に3分間適切な会話を行う方法を理解する。 | 「初対面の人との会話」 ・ループリック評価表の項目・内容を理解し、段階5の評価に必要な態度・姿勢を理解できる。 | 田中敏彦 木村映美 |
| 14 | | | | |
| 15 | 後期 | 「試験とまとめ」 筆記試験を通して、各回の講義内容を理解する。 | 「精神障害評価学」、「精神障害治療学Ⅰ」、「精神障害治療学Ⅱ」の授業を通して、精神科作業療法の内容を理解できる。 | |
| 成績評価方法 | | 出席は2/3以上の出席をもって試験の受験を可とする。 コミュニケーション演習（28点） 筆記試験（72点）を行い、合計100点　60点以上を合格とする。 | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|----------|----------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 老年期障害治療学 |
| 担当者 | 山内太郎・田中敏彦・角本裕之進・外部講師 |
| 単位数（時間数） | 2単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義とグループワーク |
| 教科書・参考書 | |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>本講義では、老年期障害に対する具体的な治療学について学ぶ。</p> <p>老年性の筋力低下など身体機能面に関して筋力テストなどの方法を知り治療に向けて考えを持てるようになる。後半の講義では、レクリエーションを利用した治療法について学ぶ。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|--|--------------|
| 1 | 通年 | 「高齢者のアクティビティ①」 「マジック・手品の治療的応用」 手品の技法と枠組みを理解し、治療的応用の手段を考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手品の演目を3種類、説明から自分で行うことができる。 ・手品の治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 2 | | | | |
| 3 | 通年 | 「高齢者のアクティビティ②」 「バルーンアートの治療的応用」 風船の特性と素材の特徴を理解し、風船を立体的に組み上げる技法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・バルーンアートの作品を2種類自分で作成することができる。 ・バルーンアートの治療的応用を考えることができる。 | 田中敏彦 外部講師 |
| 4 | | | | |
| 5 | 通年 | 「高齢者のアクティビティ①」 「花札の治療的応用」 認知機能・身体機能の維持・改善のための麻雀の応用法を学ぶ。 | <ul style="list-style-type: none"> 「花札とその活用方法」 ・花札の道具が理解できる。 ・花札のルールを理解できる。 ・3人1組で取り組みを行うことが出来る。 | 田中敏彦 |
| 6 | | | | |
| 7 | 通年 | レクリエーションについて知る | レクリエーションとは何か答えることができる | 山内太郎 |
| 8 | 通年 | レクリエーション計画書について知る | レクリエーション計画書の書き方を覚えることができる | 山内太郎 |
| 9 | 通年 | レクリエーション計画書を作成する① | グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる | 山内太郎 |

| | | | | |
|----|----|------------------------|---|-------|
| 10 | 通年 | レクリエーション計画書を作成する② | グループに分かれ、障害別レクリエーションの計画を立てることができる | 山内太郎 |
| 11 | 通年 | 障害を想定したレクリエーションの準備を行う① | グループごとにレクリエーションの準備をすることができる | 山内太郎 |
| 12 | 通年 | 障害を想定したレクリエーションの準備を行う② | グループごとにレクリエーションの準備をすることができる | 山内太郎 |
| 13 | 通年 | 障害を想定したレクリエーションの準備を行う③ | グループごとにレクリエーションの準備をすることができる | 山内太郎 |
| 14 | 通年 | レクリエーションの発表をする① | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 15 | 通年 | レクリエーションの発表をする② | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 16 | 通年 | レクリエーションの発表をする③ | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 17 | 通年 | レクリエーションの発表をする④ | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 18 | 通年 | レクリエーションの発表をする⑤ | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 19 | 通年 | レクリエーションの発表をする⑥ | 全体に向けグループで考えたレクリエーションを計画通りに発表することができる | 山内太郎 |
| 20 | 通年 | レクリエーションのフィードバック | レクリエーションの実施状況や課題についてフィードバックを受け改善策を考えることができる | 山内太郎 |
| 21 | 通年 | 喀痰吸引について理解することができる① | 講義を受け喀痰吸引に対する知識を得ることができる | 鷺見三重子 |
| 22 | 通年 | 喀痰吸引について理解することができる② | 講義を受け喀痰吸引の対象者像を言うことができる | 鷺見三重子 |
| 23 | 通年 | 喀痰吸引について理解することができる③ | 講義を受け喀痰吸引の方法を言うことができる | 鷺見三重子 |
| 24 | 通年 | 喀痰吸引について実践することができる① | 実習を通し、喀痰吸引の準備をすることができる | 鷺見三重子 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|-------|
| 25 | 通年 | 喀痰吸引について実践することができる② | 実習を通し、喀痰吸引のリスクを知ることができる | 鷺見三重子 |
| 26 | 通年 | 喀痰吸引について実践することができる③ | 実習を通し喀痰吸引をすることができる | 鷺見三重子 |
| 27 | 通年 | 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 定義について理解する 各シートについて理解する | 生活行為向上マネジメントの開発過程を知る 生活行為向上マネジメントの基本方針を知る 生活行為向上マネジメント実施の流れを知る | 角本裕之進 |
| 28 | 通年 | 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 各シートについて理解する 症例を提示し各シートに記述することができる | 興味関心チェックシートを使用し、面接を行えるようになる 生活行為アセスメント演習シートの項目を知ることができる 生活行為向上プラン演習シートを使用することができる | 角本裕之進 |
| 29 | 通年 | 生活行為向上マネジメント (MTDLP) 症例を提示し各シートに記述することができる | 症例提示の情報から生活行為の目標を挙げることができる 問題点を「心身機能」「活動・参加」「環境因子」に分けることができる 予後予測を挙げることができる 生活行為工程分析を記述することができる 治療計画を3つのプログラムに分けることができる | 角本裕之進 |
| 30 | 通年 | MTDLPを通して症例検討し発表する 症例を通し、各シートに項目を記述ができるよう習得する | 各シートの整合性を確認することができる 症例に対する各目標を述べる グループにて発表することができる | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 山内：最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 出席状況・授業態度・レクリエーションの発表とレポート提出により評価を行う。 | | |
| 準備学習など | | 各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をやるかなどグループ間での共有が必要となる | | |

| | |
|-----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科 2 学年 |
| 科目名 | 発達障害治療学 |
| 担当者 | 田中敏彦・小山和代 |
| 単位数 (時間数) | 1 単位 30 時間 |
| 学習方法 | 田中：講義 小山：講義・グループワーク・発表・臨床場面のビデオ鑑賞・課題提出 |
| 教科書・参考書 | 田中：教科書 なし 小山：教科書：発達障害の作業療法 実践編第 2 版 (三輪書店) 感覚統合 Q & A 第 2 版 (協同医書出版社) 授業資料：国家試験のレジюмеと過去問題・サブノート 参考書：脳性麻痺児の家庭教育 |

| | |
|--|--|
| 授業概要と目的 | |
| 発達障害児への指導の考え方、アプローチの方法を学ぶ。また、発達に沿った指導目標の立て方、指導方法の理解ができるようになる。担当教員は、施設において作業療法士としての臨床経験を活かして授業を行う。(田中敏彦) | |
| 発達障害分野の施設等で臨床経験がある作業療法士が「脳性麻痺の子どもたちの発達障害」の内容を担当する。人間のライフステージの視点を持ちながら、子どもから成人の障害像をとらえ、評価から治療(支援)へと実践していく。家族や地域支援を含めて作業療法を学ぶ。また「治療」とは、作業療法の考え方・理論・治療(支援)、椅子や自助具などへ発展する。これらを実習やグループワークを通して学んでいく。(小山和代) | |

| 回 (コマ) | | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|----|--|---|------|
| 1 | 前期 | 「発達障害について」 自閉症スペクトラムの概要を理解する。 | 「自閉症スペクトラム」 自閉症スペクトラムの概要を説明でき、日常生活の中で考えられる問題を挙げられる。 | 田中敏彦 |
| 2 | 前期 | 「コミュニケーションスキル」 学校・家庭・地域において必要とされるコミュニケーションスキルを理解する。 | 「学校・家庭・地域での生活」 各場所において必要となるコミュニケーションスキルを上げることができる。 | 田中敏彦 |
| 3 | 前期 | 「TEACCH プログラム」 自閉症スペクトラムにおける課題選択のポイント、課題分析、評価を理解する。 | 「TEACCH プログラムの実際」 自閉症スペクトラムにおける課題選択のポイント、課題分析、評価を経験する。 | 田中敏彦 |

| | | | | |
|----|----|--|--|------|
| 4 | 前期 | 「TEACCH プログラム 構造化 の実際」 構造化することで分かり易くなる、学習できることを理解する。 | 「指導プログラムの検証、修正」 指導プログラムの問題点があり、修正するポイントを説明できる。 | 田中敏彦 |
| 5 | 前期 | 「発達障害に対する SST①」 自閉症スペクトラムにおけるコミュニケーションスキルの向上方法として SST の概要を理解する。 | 「SST の目的と方法」 発達障害における SST の目的と方法を説明できる。 | 田中敏彦 |
| 6 | 前期 | 発達障害に対する SST②」 SST として活用できるプログラムを立案・作成する。 | 「SST プログラムの立案・作成」 発達障害における SST プログラムを立案し、必要な道具等を挙げ準備を行うことが出来る。 | 田中敏彦 |
| 7 | 前期 | 「発達障害に対する SST③」 立案・作成した SST プログラムを実践する。 | 「SST プログラムの実践」 立案・作成した SST プログラムを発表することが出来る。 | 田中敏彦 |
| 8 | 前期 | 「まとめと科目試験」 まとめと科目試験を通して講義全般の要点を理解する。 | 「まとめと科目試験」 講義全般の要点を再確認し、述べる事ができる。 | 田中敏彦 |
| 9 | 前期 | 「治療」とは何かを理解する。 | ・評価から治療への考え方を説明できる。 ・作業療法における治療理論として「神経発達学的治療法 (ボバース)」について説明できる。 | 小山和代 |
| 10 | 前期 | 脳性麻痺児の 「疾患の型別の治療の実際①」 | 「型別治療の実際」 ・痙直型四肢麻痺 ・痙直型両麻痺 について説明ができる。 ※課題：次回の食事指導のため、個人個人が食事の際にどんな食べ方、飲み方をするのか「正常な口腔機能」の表にまとめてくること。 | 小山和代 |
| 11 | 前期 | 脳性麻痺児の 「疾患の型別の治療の実際②」 型別の治療の実際をビデオを参照しながら理解する | 「型別治療の実際」 ・アテトーゼ型 ・失調型 ・弛緩型など について説明ができる。 | 小山和代 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|------|
| 12 | 前期 | ADLの中の特に必要な食事指導を理解する。 (Feeding Therapy) | <ul style="list-style-type: none"> ・実際の食べ物や飲み物を使って介助・被介助体験を通して下記のことを説明できる。 ・正常な食べさせ方、飲ませ方 ・良姿勢の保持とは ・介助の仕方（オーラルコントロール） ・姿勢保持椅子、自助具について ・正常な口腔機能 ※課題の「正常な口腔機能」の表と比較ができる。 | 小山和代 |
| 13 | 前期 | ADLを中心に治療の実際のみまとめ | 下記のことについて説明ができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・抱き方、遊ばせ方、日常生活の援助の仕方 ・治療手技の取り入れ方 ・姿勢保持椅子や自助具について | 小山和代 |
| 14 | 前期 | ・「重症心身障碍児（者）の作業療法」とは | <ul style="list-style-type: none"> ・一症例のケースレポートを講師から紹介し、評価から治療（支援）目標を立て、治療の実際を説明できる。 ・家族背景から適切な医療機関施設を選択することができる。 | 小山和代 |
| 15 | 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族・地域支援を含めた作業療法 ・ケーススタディ | <ul style="list-style-type: none"> ・一症例のケースレポートを講師から紹介する。そのレポートを読み、評価から治療（支援）目標を立て、治療の実際を説明できる。 ・家族背景から適切な医療機関を選択することができる。 | 小山和代 |
| | 前期 | まとめとテスト | 「型別の治療の実際」 <ul style="list-style-type: none"> ・食事指導のあり方 ・日常生活をどのように取り扱ってあげたらよいかを理解し、説明できる。 | 小山和代 |
| 成績評価方法 | | 田中：科目試験にて100点満点で60点以上を合格とする。 小山：筆記試験（100%）山田講師の担当分と合算する。（比率は50%ずつ） | | |
| 準備学習など | | 特になし | | |
| 留意事項 | | 特になし | | |

| | |
|----------|---|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 身体障害治療学 I |
| 担当者 | 本多亜希子 |
| 単位数（時間数） | 2単位（60時間） |
| 学習方法 | 講義・ペアで検査の練習 |
| 教科書・参考書 | <ul style="list-style-type: none"> ・標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第3版 ・標準作業療法学 専門分野 高次脳機能作業療法学 ・脳卒中最前線 ・ |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>各疾患における作業療法を理解・実施できるよう各疾患の特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。</p> <p>同様に高次脳機能障害に対しても特徴、症状、評価法および治療・援助について学ぶ。</p> <p>小テストを行い、前回の授業の復習ができるようにする。</p> <p>評価の仕方においてはペアを組んで説明の仕方から実践的に行う。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|--|-------|
| 1 | 通年 | 「オリエンテーション」 ・この授業の流れ、目的を知る。 「脳血管障害総論①」 ・脳血管障害の概要を知る。 | 「オリエンテーション」 ・この授業の流れ、実習に向けて、評価基準を理解する。 「脳血管障害総論①」 ・脳梗塞と脳出血の違いを理解する。 ・脳梗塞の分類、脳出血の種類を理解する。 | 本多亜希子 |
| 2 | 通年 | 「脳血管障害総論②」 ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 | 「脳血管障害総論②」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げるができる。 | 本多亜希子 |
| 3 | 通年 | 「脳血管障害総論③」 ・脳血管障害の症状を知る。 ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 | 「脳血管障害総論③」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げるができる。 | 本多亜希子 |
| 4 | 通年 | 「脳血管障害総論④」 ・脳血管障害の症状を知る。 | 「脳血管障害総論④」 ・脳血管障害の症状を理解できる。 | 本多亜希子 |

| | | | | |
|----|----|---|---|-------|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害における代表的な評価を知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害における代表的な評価項目を挙げることができる。 | |
| 5 | 通年 | 「脳血管障害における急性期作業療法」 <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドでの評価を知る。 ・ベッドサイドでの作業療法を知る。 | 「脳血管障害における急性期作業療法」 <ul style="list-style-type: none"> ・ベッドサイドでの評価を挙げることができる。 ・ベッドサイドにおける作業療法の目的、注意点を理解できる。 | 本多亜希子 |
| 6 | 通年 | 「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 <ul style="list-style-type: none"> ・合併症について知る。 ・脳血管障害における合併症を知る。 | 「脳血管障害におけるリスク管理、合併症」 <ul style="list-style-type: none"> ・合併症を挙げることができる。 ・脳血管障害における代表的な合併症と危険因子、所見を挙げることができる。 | 本多亜希子 |
| 7 | 通年 | 「脳血管障害における回復期作業療法」 <ul style="list-style-type: none"> ・回復段階に沿った訓練を知る。 | 「脳血管障害における回復期作業療法」 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な麻痺側上肢機能訓練について理解できる。 | 本多亜希子 |
| 8 | 通年 | 「頭部外傷の分類」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の定義を知る。 ・頭部外傷の分類を知る。 | 「頭部外傷の分類」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の定義を理解できる。 ・局所性損傷とびまん性脳損傷の違いを理解できる。 | 本多亜希子 |
| 9 | 通年 | 「頭部外傷の障害像」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の障害像を知る。 | 「頭部外傷の障害像」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の障害像を理解できる。 | 本多亜希子 |
| 10 | 通年 | 「頭部外傷における評価・治療」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の評価を知る。 ・頭部外傷の治療を知る。 | 「頭部外傷における評価・治療」 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部外傷の身体機能評価、認知機能評価、能力評価を挙げることができる。 ・頭部外傷における病期別の作業療法を理解できる。 | 本多亜希子 |
| 11 | 通年 | 「パーキンソン病の症状、重症度分類」 <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病の定義を知る。 ・パーキンソン病の症状を知る。 ・パーキンソン病の重症度分類を知る。 | 「パーキンソン病の症状、重症度分類」 <ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病の定義を理解する。 ・パーキンソン病の症状を挙げることができる。 ・Hoehn-Yahr の重症度分類を理解できる。 | 本多亜希子 |

| | | | | |
|----|----|---|---|-------|
| 12 | 通年 | 「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を知る。 ・パーキンソン病の評価を知る。 | 「パーキンソン病の評価」 ・パーキンソン症候群を挙げることができる。 ・パーキンソン病の評価を挙げることができる。 | 本多亜希子 |
| 13 | 通年 | 「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を知る。 | 「パーキンソン病の治療」 ・重症度分類別の作業療法を理解できる。 | 本多亜希子 |
| 14 | 通年 | 「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病の定義を知る。 ・糖尿病の診断基準を知る。 ・糖尿病の分類を知る。 | 「糖尿病の診断基準」 ・糖尿病とは何か説明できる。 ・糖尿病の診断基準を理解できる。 ・1型糖尿病と2型糖尿病の違いを理解できる。 | 本多亜希子 |
| 15 | 通年 | 「糖尿病の合併症」 ・糖尿病の合併症を知る。 | 「糖尿病の合併症」 ・糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症について理解できる。 | 本多亜希子 |
| 16 | 通年 | 「低血糖について」 ・低血糖の症状を知る。 「糖尿病昏睡について」 ・糖尿病昏睡の分類を知る。 | 「低血糖について」 ・低血糖を起こす原因、低血糖値、症状、対応について理解できる。 「糖尿病昏睡について」 ・糖尿病ケトアシドーシスと高浸透圧高血糖症候群の違いについて理解できる。 | 本多亜希子 |
| 17 | 通年 | 「糖尿病の評価」 ・糖尿病における作業療法での評価を知る。 「糖尿病における運動療法」 ・糖尿病における運動療法を知る。 | 「糖尿病の評価」 ・糖尿病における作業療法での評価を挙げることができる。 「糖尿病における運動療法」 ・運動強度を設定できる。 ・運動の禁止・中止事項を挙げることができる。 | 本多亜希子 |
| 18 | 通年 | 「高次脳機能障害総論」 ・高次脳機能障害とは何かを知る。 ・高次脳機能障害にみられる特徴を知る。 ・高次脳機能障害の症状を知る。 | 「高次脳機能障害総論」 ・高次脳機能障害の定義を理解できる。 ・高次脳機能障害にみられる共通の特徴を理解できる。 ・高次脳機能障害を引き起こす疾患を挙げることができる。 ・高次脳機能障害と見立てるには何を観察するのかを理解できる。 | 本多亜希子 |

| | | | | |
|----|----|---|---|-------|
| 19 | 通年 | <p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状を知る。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を知る。 | <p>「注意障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の臨床症状をふまえ、注意障害の分類を理解できる。 <p>「注意障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を上げることができる。 | 本多亜希子 |
| 20 | 通年 | <p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法を知る。 <p>「注意障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実施する。 | <p>「注意障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「注意障害の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 注意障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 | 本多亜希子 |
| 21 | 通年 | <p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を知る。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を知る。 | <p>「記憶障害の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の分類を理解できる。 <p>「記憶障害の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を上げることができる。 | 本多亜希子 |
| 22 | 通年 | <p>「記憶障害の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の治療の方法を知る。 <p>「記憶障害評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実施する。 | <p>「記憶の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶の治療の方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「記憶障害の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 記憶障害の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 | 本多亜希子 |
| 23 | 通年 | <p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を知る。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を知る。 | <p>「半側空間無視の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の分類を理解できる。 <p>「半側空間無視の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を上げることができる。 | 本多亜希子 |
| 24 | 通年 | <p>「半側空間無視の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の治療の方法を知る。 <p>「半側空間無視の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を実施する | <p>「半側空間無視の治療」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の治療方法、環境調整、対応の仕方を理解できる。 <p>「半側空間無視の評価実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> 半側空間無視の評価を実際に説明の仕方から実施することができる。 | 本多亜希子 |
| 25 | 通年 | <p>「失認の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 失認の分類を知る。 <p>「失認の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価前の確認事項を知る。 失認の評価を知る。 | <p>「失認の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> 失認の分類を理解できる。 <p>「失認の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価前の確認事項を理解できる。 失認の評価を理解できる。 | 本多亜希子 |

| | | | | |
|--------|----|---|--|-------|
| 26 | 通年 | <p>「失行症の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失行症の一般的特徴を知る。 ・失行症の分類を知る。 <p>「失行症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価前の確認事項を知る。 ・失行症の評価を知る。 | <p>「失行症の分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失行症の分類を理解できる。 <p>「失行症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価前の確認事項を理解できる。 ・失行症の評価を理解できる。 | 本多亜希子 |
| 27 | 通年 | <p>「失語症とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。 | <p>「失語症とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の定義を知る。 ・話す障害の種類を知る。 | 本多亜希子 |
| 28 | 通年 | <p>「失語症のタイプ分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症のタイプ分類を知る。 <p>「失語症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の代表的な評価を知る。 <p>「失語症患者の日常生活への援助」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症患者と接する際の留意点を知る。 | <p>「失語症のタイプ分類」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の分類を理解できる。 <p>「失語症の評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の代表的な評価を理解できる。 <p>「失語症患者の日常生活への援助」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症患者と接する際の留意点を挙げる ことができる。 | 本多亜希子 |
| 29 | 通年 | <p>「遂行機能とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遂行機能の定義を知る。 ・遂行機能の4つの要素を知る。 ・遂行機能障害の評価を知る。 | <p>「遂行機能とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遂行機能の定義を理解できる。 ・遂行機能の4つの要素を挙げる ことができる。 ・遂行機能障害のスクリーニング検査を 実施できる。 ・それ以外の評価を挙げる ことができる。 | 本多亜希子 |
| 30 | 通年 | <p>「まとめと本試験」</p> | <p>「まとめと本試験」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で学習したことを小テストも踏ま えて、筆記試験で確認する。 | 本多亜希子 |
| 成績評価方法 | | 出席点・授業点（10%）、小テスト（20%）、本試験（70%）で評価します。 合計 100 点 | | |
| 準備学習など | | 神経内科学、身体障害評価学Ⅰ、Ⅱで学習したことがベースとなりますのでしっかりと学習し ましょう。 | | |

| | |
|-----------|-------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2年次 |
| 科目名 | 身体障害治療学Ⅱ |
| 担当者 | 角本 裕之進 |
| 単位数 (時間数) | 2単位 (60時間) |
| 学習方法 | 講義・演習 |
| 教科書・参考書 | 標準作業療法学 身体機能作業療法学 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>作業療法分野には様々な領域があるが、本授業では整形外科疾患に対する作業療法を学び、評価・治療までを演習を含め実施することを目的とする。</p> <p>また整形外科疾患の概要をグループ内で調べ学習を実施することで、理解を深めることを目的とする</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-------|
| 1 | 通年 | 「オリエンテーション」 「骨折とは」 | 「骨折とは」 ・骨折の原因による分類を述べる ・骨折線による分類を列記する ・骨の解剖を理解する ・ハバース管、フォルクマン管について調べる ・治療原則 (R I C E) とは何か述べる ・クリニカルパスについて述べる | 角本裕之進 |
| 2 | | | | |
| 3 | 通年 | 「上腕骨骨折の作業療法①」 ・上腕骨骨折の概要を理解する ・情報収集した内容を他学生へ報告する技能を身につける ・上腕骨骨折の評価について知る | 「上腕骨骨折の作業療法①」 ・上腕骨骨折の諸型を述べる ・各上腕骨骨折に合併する神経麻痺を述べる ・ローテーターカフ、肩甲上腕リズム、インピンジメント徴候、関節上腕靭帯について調べる ・上腕骨骨折後の手術・固定法を述べる ・上腕骨骨折に関する評価内容を述べる | 角本裕之進 |
| 4 | | | | |

| | | | | |
|----|----|--|--|-------|
| 5 | 通年 | 「上腕骨骨折の作業療法②」 ・上腕骨骨折における治療技術を修得する ・情報収集した内容を理解し、他学生へ報告する技能を身につける | 「上腕骨骨折の作業療法②」 ・ローテーターカフ、肩甲上腕リズム、インピンジメント徴候、関節上腕靭帯について各グループで発表する ・コッドマン体操を模倣することができる ・ストップングエクササイズを実施する | 角本裕之進 |
| 6 | | | | |
| 7 | 通年 | 「橈骨遠位端骨折の作業療法」 ・橈骨遠位端骨折における治療技術を修得する ・橈骨遠位端骨折に関する評価記述を修得する | 「橈骨遠位端骨折の作業療法」 ・橈骨手根関節について述べる ・手根中央関節について述べる ・橈骨遠位端骨折の種類および特徴、TFCC、手根骨の位置、CRPS についてグループで調べ、発表する ・ダーツスローを実施する ・8の字法を測定することができる | 角本裕之進 |
| 8 | | | | |
| 9 | | | | |
| 10 | | | | |
| 11 | 通年 | 「末梢神経損傷の作業療法」 ・末梢神経損傷に対する作業療法を理解する ・末梢神経損傷における治療技術を身につける ・各神経損傷の特徴を理解する | 「末梢神経損傷の作業療法」 ・腕神経叢について述べる ・正中神経、尺骨神経、橈骨神経の支配筋を列記する ・各神経の誘発テストを実施する ・浮腫に対する包帯法を模倣することができる ・NGE を学生同士で実施する | 角本裕之進 |
| 12 | | | | |
| 13 | | | | |
| 14 | | | | |
| 15 | 通年 | 「脊髄損傷の作業療法」 ・脊髄損傷の作業療法を理解する ・各残存レベルの機能を理解する | 「脊髄損傷の作業療法」 ・ザンコリの分類を述べる ・脊髄ショックの症状を列記する ・脊髄損傷の神経症状を調べる ・テノデーシスアクションについて述べる ・車椅子の操作方法を模倣する | 角本裕之進 |
| 16 | | | | |
| 17 | | | | |
| 18 | | | | |

| | | | | |
|--------|----|---|--|-------|
| 19 | 通年 | 「大腿骨頸部骨折の作業療法」 ・大腿骨頸部骨折の概要を理解する ・大腿骨頸部骨折の作業療法の位置づけを理解する | 「大腿骨頸部骨折の作業療法」 ・内側骨折、外側骨折の違いについて述べる ・ガーデンの分類を説明できる ・人工骨頭置換術と人工股関節置換術の違いについて列記する ・脱臼方向を述べる ・脱臼を予防した ADL 動作を模倣する | 角本裕之進 |
| 20 | | | | |
| 21 | | | | |
| 22 | | | | |
| 23 | 通年 | 疾患別作業療法の臨床推論① PBL チュートリアル | 疾患別作業療法の臨床推論 ・画像所見より予想される障害を調べることができる ・画像所見より予測される障害について、断定する評価項目を挙げることができる ・障害についての治療アプローチを論文検索で調べることができる ・アプローチ方法についてスライドを用い発表できるように準備することができる | 角本裕之進 |
| 24 | | | | |
| 25 | | | | |
| 26 | | | | |
| 27 | 通年 | 疾患別作業療法の臨床推論② 発表 | 疾患別作業療法の臨床推論② ・スライドで発表することができる ・質問に対応できる ・自身の臨床推論を説明することができる | 角本裕之進 |
| 28 | | | | |
| 29 | | | | |
| 30 | 通年 | 「まとめと試験」 整形外科疾患の作業療法を理解する | 「まとめと試験」 ・整形外科疾患の作業療法について述べる ・各疾患の特徴、治療について列記する | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 整形外科疾患に対する作業療法について筆記試験（100 点）を実施し、60 点以上を合格とする。 | | |
| 準備学習など | | 運動学 I の事項を理解しておくことが望ましい | | |

| | |
|----------|-----------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2学年 |
| 科目名 | 日常生活活動学Ⅱ |
| 担当者 | 山内 太郎 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義とグループワーク |
| 教科書・参考書 | 日常生活活動（ADL）第2版<千住 秀明> |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| 日常生活活動に関する評価法の種類を学び、治療的視点と生活支援的視点から日常生活活動について学ぶ。食事・更衣・排泄・整容・入浴といったADL指導の基本を身につける。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---------------------------|--|-------|
| 1 | 前期 | 日常生活活動とは何か？ADLの概念、QOLの概念。 | 一年次覚えた言葉を思い出すことができる ADLやQOLを説明することができる | 山内 太郎 |
| 2 | 前期 | ADL評価の方法について知る① | ADL評価方法を列挙することができる | 山内 太郎 |
| 3 | 前期 | ADL評価の方法について知る② | 評価方法や評価の内容を確認する 評価方法の特徴と目的を確認する | 山内 太郎 |
| 4 | 前期 | 基本動作について知る① | 臥位姿勢～座位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする | 山内 太郎 |
| 5 | 前期 | 基本動作について知る② | 座位～立位にかけて動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする | 山内 太郎 |
| 6 | 前期 | 基本動作について知る③ | 歩行動作の種類を覚え、実際に自分の身体の動きで確認をする | 山内 太郎 |
| 7 | 前期 | 複合動作について知る① | 基本動作の応用について知る 日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる | 山内 太郎 |
| 8 | 前期 | 複合動作について知る② | 日常生活動作について、方法と特徴を覚えることができる | 山内 太郎 |
| 9 | 前期 | リハビリテーション支援機器について知識をつける① | リハビリテーション支援機器の種類を覚える 福祉用具を触り使い方を考えることができる | 山内 太郎 |
| 10 | 前期 | リハビリテーション支援機器について知識をつける② | 講義を受け、機器や用具の特徴や対象疾患について覚えることができる | 山内 太郎 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|-------|
| | | | 車椅子を操作することができる | |
| 11 | 前期 | 自助具の作成 | グループにて、対象をイメージした自助具を作成することができる | 山内 太郎 |
| 12 | 前期 | 自助具の発表 | 作製した自助具の特徴をクラスメイトに向け発表することができる 発表を聞き質問することができる | 山内 太郎 |
| 13 | 前期 | 中枢系神経疾患のADLについて知る 神経筋疾患のADLについて知る | 中枢神経疾患、神経筋疾患におけるADLの注意点を聞き、動作方法を考えることができる 考えた動作方法について、クラスメイトに対し発表をすることができる | 山内 太郎 |
| 14 | 前期 | 呼吸、循環障害、骨関節疾患のADLについて知る | 各疾患における、ADLの注意点を聞き、ADL方法をイメージすることができる | 山内 太郎 |
| 15 | 前期 | まとめ・試験 | 講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる | 山内 太郎 |
| 成績評価方法 | | 学んだ内容の発表又は筆記試験により評価を行う。(100点) | | |
| 準備学習など | | 自助具等作成時、作成するものの材料について、各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をするかなどグループ間での共有が必要となる | | |
| | | | | |

| | |
|-----------|------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2 学年 |
| 科目名 | 義肢装具学 |
| 担当者 | 石井 寛隆 |
| 単位数 (時間数) | 1 単位 (30 時間) |
| 学習方法 | 講義・実技・スライド |
| 教科書・参考書 | 義肢装具学 第4版 (医学書院) |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>現職の義肢装具士が非常勤講師を担当する。</p> <p>義肢・装具の製作、模擬装具の装着体験により障害者の負担を軽減しQOLを高める為の知識、技術を学び義肢装具使用者に対する作業療法の理念と役割を理解する。</p> |

| 回 (コマ) | | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|----|---|--|-------|
| 1 | 前期 | 「コメディカルスタッフの一員としての義肢装具士とのかかわりを理解する」 ① 基礎知識の確認 (小テスト) | 「義肢装具士とは何かを説明できる」 ① これから学ぶ義肢装具学についておまかに説明できる | 石井 寛隆 |
| 2 | 前期 | 「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法」 ① 義肢装具の支給体系を理解する ② 保険請求を理解する ③ 費用の算定方法を理解する | 「義肢装具の支給体系と保険請求、費用の算定方法の説明できる」 ① 更生用、治療用の違いを説明できる ② 保険の種類、請求先、自己負担について説明できる ③ 費用の算定方法を理解できる | 石井 寛隆 |
| 3 | 前期 | 「上肢装具製作を通じて姿位、目的を理解する」 | 「上肢装具製作を通じて姿位、目的を説明できる」 | 石井 寛隆 |
| 4 | 前期 | ① 陰性モデル作成、採型を理解する | ① 採型方法を理解し陰性モデルを作成することができる ② 採型姿位について理解し目的に応じて的確な姿位を決めることができる | 石井 寛隆 |

| | | | | |
|----|----|--|--|-------|
| 5 | 前期 | ② 陽性モデルとは何か理解する | ③ 陽性モデル修正の方法を学び骨突起部の除圧を理解し説明できる ④ 適切なトレース、採寸方法を理解し実践できる ⑤ 熱可塑性樹脂の特性を理解しモーディング手技を行うことができる | 石井 寛隆 |
| 6 | 前期 | ③ 装具仕上げ | ⑥ ROMを理解し残存機能を有効に活かし何を装具によって代償できるのかを説明できる | 石井 寛隆 |
| 7 | 前期 | ④ チェックアウト、適合を相対評価する | ⑦ チェックアウトを通じて問題点を見つけ客観的に判断して改善することができる | 石井 寛隆 |
| 8 | 前期 | 「下肢、体幹装具の使用目的と種類を理解する」 | ① 疾患に適応した装具の処方することができる ② 三点支持とアライメントについて理解し説明できる | 石井 寛隆 |
| 9 | 前期 | 「障害模擬装具を装着して障害者が何に不自由を感じているのかを知ることにより何を補助すればQOLの向上に繋がるのかを理解する」 | ① 障害者に寄り添った作業療法、装具の処方を行うことができる | 石井 寛隆 |
| 10 | 前期 | 「義肢装着前訓練（ソフトドレッシング）を理解する」 | ① ソフトドレッシングの方法を学び成熟した断端形成を行うことができる | 石井 寛隆 |
| 11 | 前期 | 「義肢の目的と種類を理解する」 ① 義手の機能的、構造的な分類を理解する | ① 義手の機能的、構造的な分類を説明できる | 石井 寛隆 |
| 12 | 前期 | ② 切断部位による義手の名称を理解する | ② 切断部位による義手の名称を説明できる | 石井 寛隆 |

| | | | | |
|--------|---|---------------------------------------|--|-------|
| 13 | 前期 | ③義足の構造的分類を理解する ④ 切断部位による義手の名称を理解する | ③ 義足の構造的分類を説明できる ④ 切断部位による義足の名称を説明できる | 石井 寛隆 |
| 14 | 前期 | 「歩行補助杖の種類と調節、車いすの種類と操作方法を理解する」 | ① 杖の使用法と調整方法を理解し合わせることができる ② 車いすの種類と部品の名称、操作方法を理解し説明できる | 石井 寛隆 |
| 15 | 前期 | 「科目終了試験」 | ① 義肢装具に関する理解度を判断することができる | 石井 寛隆 |
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・科目試験 70% (試験 85 点、成果物 15 点) ・学習への意欲・レポート 30% 合計 100 点 | | | |
| 準備学習など | 実技の際は、汚れてもよい服装と爪を短くしてくる | | | |
| | | | | |

| | |
|----------|--------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 職業関連活動学 |
| 担当者 | 山内太郎 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | 随時、授業資料を配布する |

| 授業概要と目的 | |
|--|--|
| <p>発症・受傷後のリハビリテーション治療を終えると、就業可能な年齢の場合、社会復帰の課題が前面に現れてくる。特に作業療法士は医療職の中でも「就労支援」の役割を期待されおり、本講座では「人が働く」ことの意味から始め、障害を負った方がいかに就労するか、作業療法士の評価の視点、就労支援を行う際に必要な知識・技術、就労支援を取り巻く「社会制度」、現在の問題点、などについて講義を行う。授業を通して「就労支援」の概要を理解し、説明できるようになることを期待する。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> | |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|---|---|------|
| 1 | 前期 | 「“職業”とは」 人が働くとはどういうことか、その意味について理解する。 | 職業とは何かをテーマに、グループの中で話し合うことができる 話し合った内容を全体に向けて、発表することができる | 山内太郎 |
| 2 | 前期 | 職業とは、職業の分類・意義を理解する。 就労から職業生活継続のための活動について理解する | いろいろな職業があること知る。 グループにて、いくつかの職業について、調べることができる。 | 山内太郎 |
| 3 | 前期 | いくつかの職種における職業の特性を理解する | グループで調べて職業の概要を調べることができる。調べた職業に必要な能力を挙げることができる。 | 山内太郎 |
| 4 | 前期 | 他のグループ発表を聞き複数の職業について理解をする | 調べた職業について、他グループへ発表することができる。 他グループの発表を聞き、他の職業について知ることができる | 山内太郎 |
| 5 | 前期 | 人の職業的発達について理解をする | 発達段階に応じた職業的発達段階を知ることができる | 山内太郎 |

| | | | | |
|--------|----|----------------------------------|--|------|
| 6 | 前期 | 障害者の就労について、どのような意味がある理解することができる | 障害者にとって職業とはどのような意味を持つのか、グループで話し合うことができる。 話し合った内容を全体に向けて発表することができる | 山内太郎 |
| 7 | 前期 | 職業リハビリテーションとは何か理解することができる | 職業リハビリテーションの歴史・概念・制度について知ることができる | 山内太郎 |
| 8 | 前期 | 職業関連活動と作業療法について理解することができる | 作業療法と職業・役割について、答えることができる 対象や職業リハビリテーションの開始時期について答えることができる | 山内太郎 |
| 9 | 前期 | 職業関連活動と作業療法計画について理解することができる | 作業療法計画の内容を知ることができる | 山内太郎 |
| 10 | 前期 | 作業療法の実際 (身体障害分野) | 身体障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる | 山内太郎 |
| 11 | 前期 | 作業療法の実際 (精神障害分野) | 精神障害分野における職業リハビリの実際を知ることができる | 山内太郎 |
| 12 | 前期 | 各疾患に対し職業復帰に向けた計画を立てることができる | グループにて、指定された疾患に対し職業復帰に向けた取り組みを考えることができる | 山内太郎 |
| 13 | 前期 | 各疾患に対する職業復帰計画を発表できるようにまとめることができる | 指定された疾患に対する職業復帰の取り組みを発表用にまとめることができる | 山内太郎 |
| 14 | 前期 | 職業復帰計画を発表することができる | 全体に向けて発表することができる | 山内太郎 |
| 15 | 前期 | まとめと試験 | 受けた講義の内容を理解し紙面における質問に答えることができる。 | 山内太郎 |
| 評価方法 | | 筆記試験 100 点 | | |
| 準備学習など | | | | |

| | |
|-----------|------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2 学年 |
| 科目名 | 作業療法臨床研究 I |
| 担当者 | 角本 裕之進 |
| 単位数 (時間数) | 2 単位 (30 時間) |
| 学習方法 | 実習で学んだことをまとめ発表する |
| 教科書・参考書 | 各分野の教科書 |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>実習を通して学んだことを臨床現場で規定以上の経験年数を持つ作業療法士の教員と学生の前で発表をする。</p> <p>発表の内容から質疑応答を交え、実習で学んだ経験をより深めていき、他の学生の症例発表を聞き経験していない症例も学ぶことができる。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|------------------|-----------------|--|---|-------|
| 1~5 回 (15 コマ) | 後期 | 「症例発表」 体験実習で学んだ事をより深く認識することができ、経験していない症例の評価も習得できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床現場で経験した評価内容をまとめ、授業内で発表する。 質疑応答を設けることで、自分自身でも気付かなかった事や発表で出てない内容を再認識することができる。 他の学生の発表を聞くことで、経験していない症例を推論できる。 教員からのコメントを参考に、知識を広げる。 | 角本裕之進 |
| 成績評価方法 | | <ul style="list-style-type: none"> 発表の内容 (質・声の大きさ・資料の見やすさなど) 質疑応答の頻度や内容を評価する。 100 点満点 | | |
| 準備学習など | 実習で学んだことを復習しておく | | | |

| | |
|----------|------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2 学年 |
| 科目名 | 地域リハビリテーション学 |
| 担当者 | 津金 芙蓉子・山内太郎・坂謙太郎 |
| 単位数（時間数） | 2 単位（60 時間） |
| 学習方法 | 講義とグループワーク |
| 教科書・参考書 | 必要な資料は随時配布 |

| |
|--|
| <p>授業概要と目的</p> <p>主任介護支援専門員の経験を活かし、非常勤講師として地域リハビリテーションを担当する。</p> <p>高齢者・障害者・その家族が住み慣れた地域で、生き生きと安全に生活できるようにあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場で協力し合い活動が行われている。その活動を主として健康・福祉・介護の理念・制度・実践などの地域福祉システムを具体的に理解する。理解することにより“地域共生社会”におけるチーム医療の専門職、作業療法士として仲間と協力し合い業務をスムーズに行うことを可能にする。（津金芙蓉子）</p> <p>病院・地域等で臨床経験のある作業療法士が、地域リハビリテーション分野における作業療法士の職域の歴史と概要の講義を行う。合わせて、作業療法士の行う地域リハビリテーションのツールとなる「生活行為向上マネジメント（MTDLP）」の基礎を、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが講義する。（山内太郎・坂謙太郎）</p> |
|--|

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標（GIO） | 「授業内容」 到達目標（SBOs） | 担当者 |
|-----------|-----|--|--|-----------|
| 1 | 通年 | 「地域福祉の概念」 一般目標 ① 「地域とは？」 ② 地域での自立生活 | 「地域の自立生活」 到達目標 ① 「地域」の説明を可能にして「福祉」を考える | 津金 芙蓉子 |
| 2 | 通年 | 「社会保障制度の概論」 一般目標 ① 社会保障制度の理解 | 「社会保障の種類と内容」 到達目標 ① 生涯にわたって生活を支えられている 社会保障の内容を知る ② 社会保険の種類・サービス・内容を説明 可能にする | 津金 芙蓉子 |
| 3 | 通年 | 「コミュニティ（地域社会）」 一般目標 地域福祉の展開 | 「地域福祉の発展と展開の考え方」 到達目標 ・地域福祉の発展と地域福祉展開の考え方を 学び、現在の地域福祉をみつける | 津金 芙蓉子 |

| | | | | |
|---|----|--|---|-------|
| 4 | 通年 | 「在宅福祉サービス①」 一般目標 ① 介護保険制度の創設 ② 介護保険制度の現状 | ・「介護保険制度の現状」 到達目標 ① 介護の課題を理解し、介護保険制度導入の背景・創設のねらい・仕組みを理解する ② 創設後 20 年、実施の問題、改正の経緯を理解する | 津金芙蓉子 |
| 5 | 通年 | 「在宅福祉サービス②」 一般目標 ① 介護保険制度（要介護者）の介護サービスの種類・内容※ レポート提出 | 「要介護者の介護サービス種類・内容」 到達目標 ① 在宅サービス ・自宅に訪問 ・施設に通って ・施設に短期間入所 ・生活環境の整備 ② 施設サービス ③ 特徴等を理解して説明可能にする | 津金芙蓉子 |
| 6 | 通年 | 「在宅福祉サービス③」 一般目標 ① 介護保険制度（要支援者） 介護サービスの種類・内容 ② 介護予防（事業対象者）の 基本知識 ※レポート提出 | 「要支援者の介護サービス種類・内容」 到達目標 ① 訪問サービス 通所サービス 特徴等を理解して説明可能にする ② 介護予防の基本知識(栄養)を学び高齢者を理解して課題判断可能にする | 津金芙蓉子 |
| 7 | 通年 | 「福祉・介護社会資源①」 一般目標 ① 社会資源と住民 | 「社会資源の理解」 到達目標 ① 社会資源について理解する ② ボランティア・福祉教育の説明可能にする | 津金芙蓉子 |
| 8 | 通年 | 「福祉・介護社会資源②」 一般目標 ① 地域福祉推進機関 | 「社会福祉協議会」 到達目標 ① 機能・法的規定を説明可能にする ② 業務の実施状況を知る | 津金芙蓉子 |
| 9 | 通年 | 「福祉・介護社会資源③」 一般目標 ① 地域福祉推進団体 | 「地域福祉推進団体」 到達目標 ① 民生委員・児童委員制度の内容と活動を修得する ② NPO 法人活動を修得する | 津金芙蓉子 |

| | | | | |
|----|----|--|--|-------|
| 10 | 通年 | 「福祉・介護社会資源④」 一般目標 ① 高齢者を支える機関 | 「地域包括支援センター」 到達目標 ① 地域包括支援センターの具体的な内容について修得する ② 高齢者の権利擁護・成年後見制度について理解する | 津金芙蓉子 |
| 11 | 通年 | 「地域包括ケアシステム」 一般目標 ① 地域包括ケアシステムの捉え方 | 「地域包括ケアシステムの事業内容」 到達目標 ① 高齢者の自立支援を多職種の専門的な視点を活用しながらの取り組みを学ぶ ② 高齢者の自立支援における役割や知識・技術の必要性を知り活用を考える | 津金芙蓉子 |
| 12 | 通年 | 「在宅高齢者の健康問題」－1 一般目標 ① 在宅高齢者の生活環境を修得する | 「在宅高齢者、食事の課題」 到達目標 ① 在宅高齢者の食生活を理解する | 津金芙蓉子 |
| 13 | 通年 | 「在宅高齢者の健康問題」－2 一般目標 ① 高齢者の口腔機能ケアの問題を修得する (オーラルフレイルの状態・予防) | 「摂食・嚥下機能支援」 到達目標 ① オーラルフレイルの状態・予防を理解・説明可能にする | 津金芙蓉子 |
| 14 | 通年 | 「地域ケア会議」 一般目標 ① 地域ケア介護を理解 | 「地域ケア介護での専門職の役割」 到達目標 ① 地域課題に対する知識・技術の必要性を考える ② 事例：「自治体におけるフレイル予防対策」を知る | 津金芙蓉子 |
| 15 | 通年 | 「まとめ・試験」 一般目標 ① まとめ | 「地域リハビリテーションについて」 到達目標 ① “地域共生社会”におけるチーム医療の専門職、作業療法士の役割を再考する | 津金芙蓉子 |
| 16 | 通年 | 地域リハビリテーションとは何かを知る① | 地域リハビリテーションの定義を知り、文節ごとに分けて考えることができる | 山内 太郎 |
| 17 | 通年 | 地域リハビリテーションとは何かを知る② | 対象者を取り巻く環境を理解し、自身の住んでいる地域との違いをグループ内にて話すことができる | 山内 太郎 |

| | | | | |
|--------|----|---|--|-------|
| 18 | 通年 | 自宅のそばにある地域支援サービスを探そう | PCや携帯電話を利用し、自宅近くの地域支援サービスを検索し、まとめることができる | 山内 太郎 |
| 19 | 通年 | 地域支援サービスの発表会 | 自宅近くの地域支援サービス事業を発表し、興味を持った事業について、全体に向け発表することができる | 山内 太郎 |
| 20 | 通年 | 地域支援事業とは何かを知る | 地域支援事業とは、市区町村によって異なることを知る | 山内 太郎 |
| 21 | 通年 | 地域支援事業 OT の役割について知る | 名古屋市の支援事業とリハビリテーションの関わりを答えることができる 簡単なリハビリ体操を考えることができる | 山内 太郎 |
| 22 | 通年 | 通所リハビリテーションと通所介護の役割について知る | デイサービスとデイケアとの違いを答えることができる | 山内 太郎 |
| 23 | 通年 | 地域包括ネットワークについて知る① | 地域包括ネットワークとは何か答えることができる | 坂 謙太郎 |
| 24 | 通年 | 地域包括ネットワークについて知る② | 地域包括ネットワークにかかわる職種について理解をすることができる | 坂 謙太郎 |
| 25 | 通年 | 訪問リハビリテーションと訪問看護について知る① | 訪問リハビリテーションと訪問看護の位置づけを理解することができる | 山内 太郎 |
| 26 | 通年 | 訪問リハビリテーションと訪問看護について知る② | 訪問報酬や必要書類、加算について聞き、サービスとは技術だけではなく、記録書類も含むものだと理解することができる | 山内 太郎 |
| 27 | 通年 | 住宅型有料・サ高住・特養について知る① | グループにて住宅型有料・サ高住・特養について調べることができる | 山内 太郎 |
| 28 | 通年 | 住宅型有料・サ高住・特養について知る② | 全体に向けて、発表することができる | 山内 太郎 |
| 29 | 通年 | グループ発表をする | グループで調べた内容を全体にむけて発表することができる | 山内 太郎 |
| 30 | 通年 | まとめと試験 | 習った内容を復習し、質問されたことに答えることができる | 山内 太郎 |
| 成績評価方法 | | 津金：授業態度 15 点 レポート提出 15 点（※課題） 筆記試験 70 点 山内：出席状況（5%）、科目終了試験により評価を行う。（95%） 2 人の試験を平均し 100 点換算する | | |
| 準備学習など | | 必要時は、事前に課題を提示する | | |

| | |
|----------|--------------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2年次 |
| 科目名 | 生活環境学 |
| 担当者 | 山口冨香 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義 |
| 教科書・参考書 | ・サブノート ・生活環境論（九州神陵文庫） |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| <p>入院日数が短縮され早期退院傾向にある今日、地域医療の拡充が求められている。作業療法士も地域における活躍が期待されているが、住宅改修について基本的な知識を有しておくことは必須となっている。本講義では主に住宅改修を中心に、対象者の生活を取り巻く環境についてどのようなことに留意すべきか教科書・サブノートを使って学習し、生活環境に関する基礎的な知識の習得を目指す。なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|--|---|------|
| 1 | 前期 | 「総論」 生活環境とは何か、定義とリハビリテーションにおける生活環境の位置づけを理解する。 | 「生活環境論とは」 ・国際生活機能分類における生活機能について説明できる。 ・生活に関与する環境因子について説明できる。 | 山口冨香 |
| 2 | 前期 | 「生活環境整備の留意点」 さまざまな身体障害によって起きてくる日常生活上の活動制限を理解する。 | 「障害別による日常生活上の障害と事故」 ・身体障害によっておこる日常生活活動の制限を説明できる。 ・身体障害によって起こる可能性がある事故について説明できる。 ・事故に対するリスク管理について説明できる。 | 山口冨香 |
| 3 | 前期 | 「関節可動域と日常生活活動」 日常生活に影響を与える関節可動域の要因を学び、理解する。 | 「日常生活に影響する可動域制限」 ・関節可動域と日常生活活動との関係を述べることができる。 ・関節可動域制限がある場合のADL上の工夫を説明できる。 | 山口冨香 |
| 4 | 前期 | 「バリアフリー」 バリアフリーについて、障害者施策の展開と対策について理解する。 | 「バリアフリーの関連諸制度」 ・バリアフリーについて説明できる。 ・バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン | 山口冨香 |

| | | | | |
|----|----|--|--|------|
| | | る。 | ザインについて説明できる。 | |
| 5 | 前期 | 「住環境整備1」 住環境整備の意義・整備の流れについて知る。段差／スロープ／手すりの設置について理解する。 | 「住環境整備の意義・整備について」 ・住環境整備の意義・整備の流れについて説明できる。 「段差／スロープ／手すり」 ・具体的な整備対策を説明できる。 | 山口冨香 |
| 6 | 前期 | 「住環境整備2」 車いす／廊下／建具／照明の設置について理解する。 | 「車いす／廊下／建具／照明」 ・具体的な整備対策を説明できる。 | 山口冨香 |
| 7 | 前期 | 「住環境整備3」 椅子／テーブル／色彩の要点について理解する。 | 「椅子／テーブル／色彩」 ・具体的な整備対策を説明できる。 | 山口冨香 |
| 8 | 前期 | 「部屋別アプローチ1」 住宅内の玄関／廊下／寝室／食堂における環境整備の考え方を理解する。 | 「玄関／廊下／寝室／食堂」 ・具体的な整備対策を説明できる。 | 山口冨香 |
| 9 | 前期 | 「部屋別アプローチ2」 住宅内の台所／浴室／トイレ／階段における環境整備の考え方を理解する。 | 「台所／浴室／トイレ／階段」 ・具体的な整備対策を説明できる。 | 山口冨香 |
| 10 | 前期 | 「福祉用具と障害別住宅改造例1」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改造例を理解する。 | 「福祉用具」 ・起居／移動／入浴／排泄／コミュニケーションに関する具体的な福祉用具対策を説明できる。 「障害別住宅改造例」 ・脳卒中／脊髄損傷／リウマチに関する住環境整備について説明できる。 | 山口冨香 |
| 11 | 前期 | 「福祉用具と障害別住宅改造例2」 住環境整備に関する福祉用具と実際の住宅改造例を理解する。 | 「障害別住宅改造例」 模擬症例に対する環境整備を自ら考え、発表することができる。 | 山口冨香 |
| 12 | 前期 | 「MOHO1」 人間作業モデルの概要について理解する。 | 「人間作業モデルの概要」 ・作業療法における研究及び理論展開、人間作業モデルについて学習し、その概要について説明できる。 | 山口冨香 |

| | | | | |
|--------|----|--|---|------|
| 13 | 前期 | 「MOHO 2」 人間作業モデルの具体的な活用例について理解する。 | 「人間作業モデルの活用例と今後」 ・実際の症例に即した人間作業モデルの活用の仕方と今後の展開について説明できる。 | 山口冨香 |
| 14 | 前期 | 「COPM/AMPS」 人間作業モデルの流れをくむCOPMとAMPSについて、その概要を理解する。 | 「COPMとAMPS」 ・具体的な内容及び活用の仕方について説明できる。 | 山口冨香 |
| 15 | 前期 | 「まとめと試験」 本講義の概略を説明し、理解度を確認する。 | 各講義の重要ポイント及び理解度について 国家試験などを利用して書面で説明できる。 | 山口冨香 |
| 成績評価方法 | | 出席は 2/3 以上の出席をもって試験の受験を可とする。 最終講義にて筆記試験（100 点）を行い、60 点以上を合格とする。 | | |
| 準備学習など | | 身近にある具体的な活用例があれば気に留めておくといよい。 | | |

| | |
|----------|-----------------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科・2学年 |
| 科目名 | 地域作業療法学 |
| 担当者 | 山内 太郎 |
| 単位数（時間数） | 1単位（30時間） |
| 学習方法 | 講義とグループワーク |
| 教科書・参考書 | 指定する教科書はないが、生活環境論などの本は参考となる |

| |
|---|
| 授業概要と目的 |
| <p>地域における作業療法の仕事を理解する。</p> <p>作業療法士の視点に立ち、住環境と患者像を照らし合わせ、環境整備及び治療方針を検討する。</p> <p>なお、作業療法士として、病院等で臨床経験のあるものが授業を担当する。</p> |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|-----------|-----|-----------------------|--|-------|
| 1 | 前期 | パーソン センタード ケアという言葉を知る | 対象者を観る際の一つの方法として、パーソン センタード ケアという方法があるということを知ることができる | 山内 太郎 |
| 2 | 前期 | 地域作業療法とは何かを知る① | 地域作業療法という言葉のイメージを持つことができる | 山内 太郎 |
| 3 | 前期 | 地域作業療法とは何かを知る② | 地域作業療法の歴史について知ることができる | 山内 太郎 |
| 4 | 前期 | 社会資源について知る① | どういったものが社会資源となるのかを知ることができる | 山内 太郎 |
| 5 | 前期 | 社会資源について知る② | 社会資源の活用方法について考えることができる | 山内 太郎 |
| 6 | 前期 | ケアマネジメント・アセスメントについて知る | ケアマネジメントとアセスメントの違いをこたえることができる | 山内 太郎 |
| 7 | 前期 | 住環境の中の福祉用具について知る | 福祉用具の定義を答えることができる 住環境について、考える際の観察すべきポイントを挙げるることができる | 山内 太郎 |
| 8 | 前期 | 環境整備を行うことができるようになる① | 自宅の見取り図を描くことができる 見取り図に段差や動線などを書き込むことができる | 山内 太郎 |
| 9 | 前期 | 環境整備を行うことができるよ | グループとなり、自宅の特徴を発表すること | 山内 太郎 |

| | | | | |
|--------|----|---|---|-------|
| | | うになる② | ができる | |
| 10 | 前期 | 対象者をイメージした住宅改修を行うことができるようになる ① | グループ学習 自宅見取り図を共有することができる 対象者の情報を聞き出すことができる | 山内 太郎 |
| 11 | 前期 | 対象者をイメージした住宅改修を行うことができるようになる ② | グループ学習 自宅見取り図と対象者の生活状況を照らし合わせる 住宅改修が必要と考えられるポイントを見つけることができる | 山内 太郎 |
| 12 | 前期 | 対象者をイメージした住宅改修を行うことができるようになる ③ | グループ学習 住宅改修方法について検討することができる 発表の準備をすることができる | 山内 太郎 |
| 13 | 前期 | 対象者をイメージした住宅改修を行うことができるようになる ④ | 他のグループに対し、自分たちの考えを発表することができる | 山内 太郎 |
| 14 | 前期 | 対象者をイメージした住宅改修を行うことができるようになる ⑤ | 他のグループの発表を聞き、不足している部分を補うことができる | 山内 太郎 |
| 15 | 前期 | まとめ・試験 | 講義を受けた内容を覚え直し、試験用紙に記入することができる | 山内 太郎 |
| 成績評価方法 | | 出席状況・授業態度・課題提出・グループ発表・試験により評価を行う。 | | |
| 準備学習など | | 各グループごとに準備をしてもらうため、次に何をやるかなどグループ間での共有が必要となる | | |
| | | | | |

| | |
|----------|---------------------|
| 学科・年次 | 作業療法科 2 学年 |
| 科目名 | 臨床実習Ⅱ |
| 担当者 | 角本 裕之進、実習指導者（作業療法士） |
| 単位数（時間数） | 6 単位（270 時間） |
| 学習方法 | 実習 |
| 教科書・参考書 | 各分野の教科書 |

| |
|--|
| 授業概要と目的 |
| 臨床現場で 5 年以上の経験年数を持つ作業療法士の指導の下、病院や施設の役割や機能、作業療法士の業務を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・監督のもとに臨床技能を模倣・実施する。 |

| 回 (コマ) | 授業日 | 「授業項目」 一般目標(GIO) | 「授業内容」 到達目標 (SBOs) | 担当者 |
|---------------|-----|---|---|----------------|
| 15 日間 2 施設 | 後期 | <p>「体験実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ。 臨床実習指導者の指導・援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握するために必要な評価方法を選択し、模倣・実施する。 作業療法を学ぶ学生としての基本的態度を習得し、作業療法士としてふさわしい資質の向上・充実をはかる。 | <ul style="list-style-type: none"> 対象者や他部門から必要な情報を収集できる。 評価技法の選択、実施ができる。 全体像を把握し問題点を抽出することが出来る。 評価中、安全性を確保できる。 長期目標・短期目標を設定することができる。 治療計画を立てることができる。 各提出物が期限内に提出することができる。 記述、口頭での報告が適切にできる。 施設における部門の役割について理解することができる。 実習に対して意欲的、積極的に学習できる。 職場内での人間関係を円滑に保つことができる。 日常の規律を自覚し、守っていく態度をとれる。 感情、情緒面で安定した態度をとれる。 目標達成を目指して意欲的に努力するこ | 角本裕之進 実習指導者 |

| | | | | |
|--------|--|---|--|--|
| | | | <p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の人権を尊重できる。 ・守秘義務を守ることができる。 ・対象者との関係を成立させることができる。 ・対象者に対して安全性を配慮できる。 ・緊急時又は問題解決ができない時に援助を求めることができる。 | |
| 成績評価方法 | | <p>・指導者からの評価表を参考（80%）にし、出席・デイリーノート・症例報告書・実習態度など（20%）で評価する。合計 100 点。</p> | | |
| 準備学習など | | <p>実習までの授業をしっかり習得すること 評価内容の実技を覚えていくこと コミュニケーション能力を高めておくこと</p> | | |